

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7542	大正2年	新年の部	大字書き畢ンぬ御降晴れてあり	御降	天文
7543	大正2年	新年の部	神意苔青し若水くむ処	若水	人事
7544	大正2年	新年の部	初かまど夫の松柏を薪とす	初竈	人事
7545	大正2年	新年の部	我家の瑞氣墨の香匂ふ春	書初	人事
7682	大正3年	新年の部	初空を大にす神路山の杉	初空	天文
7683	大正3年	新年の部	若水や杉見る毎にぢゝが顔	若水	人事
7684	大正3年	新年の部	氏神の杉おろしの雪を鋤初め	鋤初	人事
7686	大正3年	新年の部	小松引く足の力よ腰の力よ	小松引	人事
7688	大正3年	新年の部	我影の顧盼を壁に冬ごもり	冬籠	人事
7759	大正4年	新年の部	雑煮ことし大嘗祭のある	雑煮	人事
7760	大正4年	新年の部	大雪の且よく燃ゆかまどの火	元旦	時候
7763	大正4年	新年の部	冬籠水を甘しと思ひけり	冬籠	人事
7830	大正5年	新年の部	神の國に我として生く初日かげ	初日	天文
7831	大正5年	新年の部	若水に山の高さよ笈鳴り	若水	人事
8055	大正6年	新年の部	第一の盥嗽了る年男	年男	人事
8056	大正6年	新年の部	年男吾が候ふや竈の火	年男	人事
8214	大正7年	新年の部	若水に來去す兒らが顔よ	若水	人事
8215	大正7年	新年の部	南山を流るゝ水や歳旦	元旦	時候
8400	大正8年	新年の部	硯の海濶く一家の吉書哉	書初	人事
8401	大正8年	新年の部	山草は神代の草と覚ゆるよ	齒朶	植物
8403	大正8年	新年の部	我家の水音に年新た也	新年	時候
8605	大正9年	新年の部	初鶏に鋤鋤ばらの控へたり	初鶏	動物
8606	大正9年	新年の部	早梅の御題畏し鋤はじめ	鋤初	人事
8608	大正9年	新年の部	取あへず手毬つくべき場作れ	手毬	人事
8759	大正10年	新年の部	讀初の一章大御心かも	讀初	人事
8760	大正10年	新年の部	よみそめや物と相和す古机	讀初	人事
8761	大正10年	新年の部	讀初の子等ははや庭の凍に在り	讀初	人事
8762	大正10年	新年の部	神木立に吹雪も知らぬ畏さよ	初詣	人事
8764	大正10年	新年の部	蝶鳥の夢打破る工夫かな	雑	雑
8766	大正10年	新年の部	志す所をいはず桃の花	桃	植物
8767	大正10年	新年の部	蝶鳥と子等をはやしぬ松の内	松の内	時候
8769	大正10年	新年の部	よき人に日月遅し門の春	初春	時候
8918	大正11年	新年の部	元日も水鳥羽搏つ夜となりぬ	元日	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7552	大正2年	春の部	装幀に天覧思ふ春寒き	春寒	時候
7553	大正2年	春の部	回覧集などでか遅き春寒に	春寒	時候
7554	大正2年	春の部	花鳥画いて小婢に與ふ春寒く	春寒	時候
7557	大正2年	春の部	夜学日の間遠に菜種花となる	菜の花	植物
7562	大正2年	春の部	春雷の杉に五尺の尖りかな	春雷	天文
7563	大正2年	春の部	春雷や根芹掘る水のむら濁	春雷	天文
7565	大正2年	春の部	魂語録に來り臨めり春の風	春風	天文
7566	大正2年	春の部	東風高し大衆旗鼓に法の陣	東風	天文
7567	大正2年	春の部	兵談も海國の事爐塞げり	爐塞	人事
7568	大正2年	春の部	爐塞げば知る山の暗水の明	爐塞	人事
7570	大正2年	春の部	暮遅きためし見む花間に竹外に	遅日	時候
7572	大正2年	春の部	人に知る知らぬあり只春惜む	春惜む	時候
7574	大正2年	春の部	春雨の泥乾き大鳥も飛ぶ	春雨	天文
7575	大正2年	春の部	春雨帰庵茸作る術を見て	春雨	天文
7576	大正2年	春の部	恩に狎るゝ下部あり春雨の泥	春雨	天文
7577	大正2年	春の部	隣畑に籬取り去りぬ春の雨	春雨	天文
7578	大正2年	春の部	春雨霏々社中帰省の一人飲む	春雨	天文
7579	大正2年	春の部	鋏鍛冶の今日も打たずよ春の雨	春雨	天文
7581	大正2年	春の部	燕來しと見て遠眺を再びす	燕	動物
7583	大正2年	春の部	何に吹く貝の音つやぞ風光る	風光る	天文
7584	大正2年	春の部	陽炎に何語りけむ唇ぞ	陽炎	天文
7585	大正2年	春の部	水に棲む物皆に水温みけり	水温む	地理
7586	大正2年	春の部	暖に天地生々の心あり	暖	時候
7587	大正2年	春の部	耳目具して蟄虫の出づ霞哉	霞	天文
7588	大正2年	春の部	日治し片栗の葉に花に葉に	片栗の花	植物
7589	大正2年	春の部	槻若葉郷先生を傳す誰ぞ	若葉	植物
7590	大正2年	春の部	高津島も這ふ虫も秋を知れとこそ	秋	時候
7591	大正2年	春の部	露輕し籬に傍うて虫の飛ぶ	露	天文
7592	大正2年	春の部	末枯や里に歸れば古き唄	末枯	植物
7593	大正2年	春の部	落日や凧の跡の土じめり	凧	天文
7690	大正3年	春の部	雛衣とならましを雛近きもの	雛祭	人事
7692	大正3年	春の部	君をほぐ季無からめや啓蟄の頃	啓蟄	時候
7694	大正3年	春の部	地の下に物あり雪の上に耀きぬ	雪	天文
7700	大正3年	春の部	顔に淡雪今ふりし壁土思ふ	淡雪	天文
7701	大正3年	春の部	ごうと鳴る風に非ず冴返る空	冴返	時候
7702	大正3年	春の部	凍霧透きて火赤く烟三ところ	凍霧	天文
7703	大正3年	春の部	地に布ける淡雪亀裂さながらに	淡雪	天文
7704	大正3年	春の部	又震るかに東風吹く雲と木の末と	東風	天文
7705	大正3年	春の部	崖崩れ掘る鋏憂と残雪に	残雪	地理
7706	大正3年	春の部	大地裂けたり露のとう活々と	露の臺	植物
7707	大正3年	春の部	陽炎に包まれて老と幼と居り	陽炎	天文
7708	大正3年	春の部	假橋に蹊作す春の水とゞろ	春の水	地理
7709	大正3年	春の部	萌えがてに死ぬる草黧の沙湧いて	草萌	植物
7710	大正3年	春の部	着膨レ悔ゆ春川渡る鹿島立	春の川	地理
7711	大正3年	春の部	家に帰りて雀の巢屑又掃きぬ	雀の巢	動物
7712	大正3年	春の部	帆にあまる風や木芽張る岸高を	木の芽	植物
7714	大正3年	春の部	雨に冷ゆる人々の顔花暗し	花	植物
7715	大正3年	春の部	悲しき事を教へられつ草摘む子	摘草	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7716	大正3年	春の部	牡丹彫る鑿やゝ鈍り春埃	春塵	天文
7717	大正3年	春の部	土膨るゝと見て畑打つ力かな	畑打ち	人事
7718	大正3年	春の部	一ツ來る春の蚊夜雨只土の知る	春の蚊	動物
7720	大正3年	春の部	神わざの鳥の巢毀つこと勿れ	鳥の巢	動物
7721	大正3年	春の部	鳥已に巢へりかほど草萌えし	鳥の巢	動物
7722	大正3年	春の部	脈々の暖かさ巢鳥獨知る	鳥の巢	動物
7723	大正3年	春の部	禿筆に宿墨に春の惜まるゝ	春惜む	時候
7724	大正3年	春の部	善く割るゝ薪にも春を惜む人	春惜む	時候
7725	大正3年	春の部	遂に言はで只管に春を惜む哉	春惜む	時候
7726	大正3年	春の部	春惜む唱酬秘むとなき夜半に	春惜む	時候
7727	大正3年	春の部	鳥の名を知らずして徒に春惜む	春惜む	時候
7729	大正3年	春の部	乗合の話柄轉ず山つゝじ濃き	躑躅	植物
7765	大正4年	春の部	高東風の旦より良く啼く子とぞ	東風	天文
7766	大正4年	春の部	山に樹大きく春立つ北國ハ	立春	時候
7767	大正4年	春の部	枝も伐るをゆるさぬ杉や凧	凧	人事
7769	大正4年	春の部	踊るべき人誰々を想ひけり	踊	人事
7771	大正4年	春の部	快し春寒けれど日の光	春寒	時候
7773	大正4年	春の部	陽炎の今ぞ木にもゆ草にもゆ	陽炎	天文
7774	大正4年	春の部	この國の地氣動くところ露のとう	露の臺	植物
7776	大正4年	春の部	春天雪舞ひ帰雁咽ぶかな	春の空	天文
7778	大正4年	春の部	東風つゝく三日よ木實植てより	東風	天文
7780	大正4年	春の部	鳥は巢を得たり木魚稀にうつ	鳥の巢	動物
7782	大正4年	春の部	連翹や鳥海の雪目に痛き	連翹	植物
7784	大正4年	春の部	あぢきなし花見の記にも君が事	花見	人事
7788	大正4年	春の部	妙境は木蓮に春の雲舞ハむ	春の雲	天文
7790	大正4年	春の部	鶯や朝茶の烟断ゆる時	鶯	動物
7877	大正5年	春の部	立春大吉の中の枯木かな	立春	時候
7878	大正5年	春の部	春寒の土踏みて在り讀書人	春寒	時候
7879	大正5年	春の部	春寒に一人殖ゑたる針子哉	春寒	時候
7880	大正5年	春の部	大凍の中に庭柳春めきぬ	春めく	時候
7881	大正5年	春の部	夕凍に瀬鳴り迫るが如く覚ゆ	凍返る	地理
7882	大正5年	春の部	雪解遅く國中を山の鎮めかな	雪解	地理
7883	大正5年	春の部	兒等叫ぶ一しきり雪解の館の下	雪解	地理
7884	大正5年	春の部	寒ん明けの雪垣をもる日ざしかな	餘寒	時候
7885	大正5年	春の部	伐木丁々たり東風渡る山	東風	天文
7886	大正5年	春の部	北人や二月佳節の顔白し	二月	時候
7887	大正5年	春の部	佳節の氣象地に青き露の臺	露の臺	植物
7888	大正5年	春の部	佳節遊ぶ青年どもや春寒を	春寒	時候
7889	大正5年	春の部	仆れ樹の生き / \ とあり氷解く	氷解	地理
7890	大正5年	春の部	社木のみ伐残されつ春吹雪	春吹雪	天文
7891	大正5年	春の部	一方の青天濃きに春の雪	春雪	天文
7892	大正5年	春の部	臼木にと切放す木口東風過る	東風	天文
7893	大正5年	春の部	上國の梅信は是風邪の神	梅	植物
7894	大正5年	春の部	火燃ゆ活々と凍霧に住む人等	凍霧	天文
7895	大正5年	春の部	兒好くて凍霧の中來る女かな	凍霧	天文
7896	大正5年	春の部	凍霧晴れて日は南なる人の顔	凍霧	天文
7897	大正5年	春の部	氷解くる此池の魚数知れず	氷解	地理
7898	大正5年	春の部	日の雪解夜の流レとなりにけり	雪解	地理

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7899	大正5年	春の部	雪解踏來る朧が妻子を見迎へぬ	雪解	地理
7900	大正5年	春の部	啓蟄の日の正午かな雪間水	啓蟄	時候
7901	大正5年	春の部	山迢かにして東風吹くこと長し	東風	天文
7903	大正5年	春の部	千竿の竹の影舞ふ朧月	朧月	天文
7904	大正5年	春の部	山峻しく水急に涅槃會すぎぬ	涅槃會	人事
7905	大正5年	春の部	風反りの樹や春淺き流レ雲	春淺し	時候
7906	大正5年	春の部	學校の卒業式や春の雪	春雪	天文
7907	大正5年	春の部	路砂利の幾度春の雪に日に	春雪	天文
7908	大正5年	春の部	卒業の茶話會や春淺き雨	春淺し	時候
7910	大正5年	春の部	柳已に青し汝が帽影に	柳	植物
7912	大正5年	春の部	人々の拳陽炎もゆるかな	陽炎	天文
7913	大正5年	春の部	山少し焼くるに昼餉食ひ居たり	野山焼	人事
7914	大正5年	春の部	古葉くゞり旧根に及ぶ春の水	春の水	地理
7915	大正5年	春の部	山下行く我に春山の女唄ふ	春の山	地理
7916	大正5年	春の部	岸辺樹々の枝間朗らに春の水	春の水	地理
7917	大正5年	春の部	絲遊や夜雨に浸りし種俵	陽炎	天文
7918	大正5年	春の部	春一樹二樹に芥焼くけふり	春	時候
7919	大正5年	春の部	村文庫蛙鳴く田の邊り也	蛙	動物
7920	大正5年	春の部	草萌ゆる頃又動く讀書慾	草萌	植物
7921	大正5年	春の部	草もゆる見て我草鞋足すゝむ	草萌	植物
7922	大正5年	春の部	鶯や止まって潭となるところ	鶯	動物
7923	大正5年	春の部	道に一人端山鶯きゝにけり	鶯	動物
7924	大正5年	春の部	書樓近く巢作る雀恣マ	雀の巢	動物
7925	大正5年	春の部	矢根石拾ふ頭上を轉りぬ	轉	動物
7926	大正5年	春の部	鶯や首を回らせば天空し	鶯	動物
7927	大正5年	春の部	我と共にこの一國の霞みけり	霞	天文
7928	大正5年	春の部	山は山河は河なる霞かな	霞	天文
7929	大正5年	春の部	地にもゆる我も / \ と土筆	土筆	植物
7930	大正5年	春の部	耕人の目に鳥海の雪かすむ	霞	天文
7931	大正5年	春の部	堆きままでに落花を掃きあつむ	落花	植物
7932	大正5年	春の部	巢籠の雀を襲ふ風落花	雀の巢	動物
7933	大正5年	春の部	納屋の前花散りつもる炭俵	落花	植物
7934	大正5年	春の部	風雨叩く櫻を望むがらす窓	櫻	植物
7935	大正5年	春の部	蕨伸る日照りに鳴るや蕨枯葉	蕨	植物
7936	大正5年	春の部	折るとしもなき早蕨の把に盈つる	蕨	植物
7937	大正5年	春の部	野路一人雉子鳴く方を後ろにす	雉子	動物
7938	大正5年	春の部	樹に草に行春の雨斜なる	行春	時候
7939	大正5年	春の部	神鳴りて天氣変りぬ梨の花	梨の花	植物
7940	大正5年	春の部	隣隔つ生垣深く春暮る	暮春	時候
7941	大正5年	春の部	雀子と大根の花と風雨かな	雑	雑
7942	大正5年	春の部	蕨狩の女に守る古渡シ	蕨狩	人事
8079	大正6年	春の部	柳の芽露の臺我と相知りぬ	雑	雑
8080	大正6年	春の部	東風の里雪穴日々に毀たるゝ	東風	天文
8081	大正6年	春の部	氷解くる池の面の風を迎へけり	氷解	地理
8085	大正6年	春の部	大方の柳芽ぐむに涙かな	柳の芽	植物
8086	大正6年	春の部	翔りゆく白鳥二ツ春の水	春の水	地理
8087	大正6年	春の部	我が立つを巢の營みの雀飛ぶ	雀の巢	動物
8088	大正6年	春の部	禽一時柴刈人に轉りぬ	轉	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8089	大正6年	春の部	草蒨時渡シの舩の遅き待つ	草蒨	植物
8090	大正6年	春の部	澤水の早さに堪へて露の臺	露の臺	植物
8091	大正6年	春の部	柳垂るゝ處我が立つ星の春	春の星	天文
8092	大正6年	春の部	提灯にからびたり春の泥一片	春泥	地理
8093	大正6年	春の部	春の泥乾くや燕とぶはじめ	春泥	地理
8094	大正6年	春の部	庭の松に來鳴く鶯書に親し	鶯	動物
8095	大正6年	春の部	當面の山焼くる見て書を釋てつ	野山焼	人事
8096	大正6年	春の部	大衆ハ知らず斷崖の花辛夷	辛夷	植物
8097	大正6年	春の部	木の芽吹いて禽もろ / \ が口を張る	木の芽	植物
8099	大正6年	春の部	山門の一偈木芽のもろ / \ に	木の芽	植物
8101	大正6年	春の部	鶯の耳に徹して痕もなし	鶯	動物
8103	大正6年	春の部	雑草に山吹白し垣日向	山吹	植物
8232	大正7年	春の部	子等の顔に啓蟄近き日の色よ	啓蟄	時候
8233	大正7年	春の部	この雨に雪減る上を歩みけり	雪解	地理
8234	大正7年	春の部	栗枯木雪解の烟立つ中に	雪解	地理
8235	大正7年	春の部	腹案を筆す物皆冴返る	冴返	時候
8236	大正7年	春の部	雪の底笈溢るゝ雪解哉	雪解	地理
8237	大正7年	春の部	太古史を讀む屋外の雪解哉	雪解	地理
8238	大正7年	春の部	山辺雪解を見て日毎往還す	雪解	地理
8240	大正7年	春の部	大樹の下兒孫額づくや露のとう	露の臺	植物
8241	大正7年	春の部	まれ人と夜座寛ぐや猫の戀	猫の戀	動物
8242	大正7年	春の部	鳥已に蹠を印す雪間草	雪間草	植物
8243	大正7年	春の部	殘雪の人脅かすゆゝしさよ	殘雪	地理
8244	大正7年	春の部	野蒜掘戀猫の宿へ戻る也	野蒜	植物
8245	大正7年	春の部	野蒜もゆる彼方伐木の群衆かな	野蒜	植物
8246	大正7年	春の部	春風や雪垣解けば山見ゆる	春風	天文
8247	大正7年	春の部	雪垣の跡や柳の緑匂ふ	柳	植物
8248	大正7年	春の部	百千鳥處を得たり巨樹細柯	百千鳥	動物
8249	大正7年	春の部	春風に猶冷ゆらんぞ雲雀の巢	雲雀の巢	動物
8251	大正7年	春の部	花鳥の魂こぞる朧かな	朧	天文
8253	大正7年	春の部	耳近に鳴く鶯や山の鼻	鶯	動物
8255	大正7年	春の部	雛の日や先祖の話一くさり	雛祭	人事
8257	大正7年	春の部	畑の土膨れつくして春のゆく	行春	時候
8258	大正7年	春の部	路傍や末黒うすれて春の行く	行春	時候
8259	大正7年	春の部	行春や嬌々として鳥の飛ぶ	行春	時候
8260	大正7年	春の部	春を惜む心友二人夜學かな	春惜む	時候
8261	大正7年	春の部	行春の鳥の啄む水泡かな	行春	時候
8262	大正7年	春の部	醉酣に暴風雨中春惜む	春惜む	時候
8263	大正7年	春の部	土くれも我が手も硬し暮るゝ春	暮春	時候
8264	大正7年	春の部	平準の水に岸辺の春くるゝ	暮春	時候
8265	大正7年	春の部	行春や徒に伸びたる藥草	行春	時候
8266	大正7年	春の部	水あれば葉廣水草春老いし	行春	時候
8267	大正7年	春の部	この花に鮮魚の價貴けれ	花	植物
8268	大正7年	春の部	貧しくて年経る家や花大根	大根の花	植物
8269	大正7年	春の部	晝の戸に李の花香漾へり	李の花	植物
8270	大正7年	春の部	籬ともなく朽木横はる春の艸	春の草	植物
8271	大正7年	春の部	少間を摘むべき草のほゝけたり	摘草	人事
8272	大正7年	春の部	蕨五六本椎茸一つ握りつゝ	蕨	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8419	大正8年	春の部	土につく我足うれし露のとう	露の臺	植物
8420	大正8年	春の部	雪解靄中に枯木と我と哉	雪解	地理
8421	大正8年	春の部	春淺き枯木の苔の美しくしや	春淺し	時候
8422	大正8年	春の部	露のとう苦きに美酒や春淺き	春淺し	時候
8423	大正8年	春の部	啄木鳥を徒に見てすぐ春淺き	春淺し	時候
8424	大正8年	春の部	春淺き土や大樹の根の邊り	春淺し	時候
8425	大正8年	春の部	春淺し水鳥春の水をくぐる	春淺し	時候
8426	大正8年	春の部	一日着て一日掛く春淺き漁簑	春淺し	時候
8427	大正8年	春の部	春淺き庭の主や古椿	春淺し	時候
8428	大正8年	春の部	春淺し鉄砲ひゞく田螺の戸	春淺し	時候
8429	大正8年	春の部	古藻ながらの湖の魚買ふ春淺き	春淺し	時候
8430	大正8年	春の部	春はやも山の黛濃き日哉	早春	時候
8432	大正8年	春の部	もえいづる草に不覺の泪かな	草萌	植物
8433	大正8年	春の部	岡邊行く子等や木芽の競ひふく	木の芽	植物
8434	大正8年	春の部	木芽ふけよ / \ と鳥の諸音哉	木の芽	植物
8435	大正8年	春の部	木芽固し卒業式の人々に	木の芽	植物
8436	大正8年	春の部	木芽垣に師弟別を惜しみけり	木の芽	植物
8437	大正8年	春の部	氏神に不時の詣や木芽もゆ	木の芽	植物
8438	大正8年	春の部	舟上る遅々柳の芽ふくれをり	柳の芽	植物
8439	大正8年	春の部	遅き早き木芽に雪の淡々し	木の芽	植物
8440	大正8年	春の部	樹々の芽のふく音か雨けふる中	木の芽	植物
8441	大正8年	春の部	木芽つめばよべの雨露含みをり	木の芽	植物
8443	大正8年	春の部	命長き椎や梢の百千鳥	百千鳥	動物
8445	大正8年	春の部	朝鮮の桃種植ゑつ此土に	花種蒔く	人事
8446	大正8年	春の部	木芽ふくや冷たくなりし野火の痕	木の芽	植物
8447	大正8年	春の部	犬鈍に鶏輕し桑もえ出でゝ	桑の芽	植物
8449	大正8年	春の部	日遅々たり椿赤きに水流れ	遅日	時候
8451	大正8年	春の部	庭の内外うからやからにはつ燕	燕	動物
8452	大正8年	春の部	墓木より春雨垂るに孫ら子ら	春雨	天文
8454	大正8年	春の部	朝鳥の花に羽たゞく目ざましき	花	植物
8455	大正8年	春の部	笙箏築神格りますや花の雲	花	植物
8456	大正8年	春の部	我家の水や花見の足すゞぐ	花見	人事
8457	大正8年	春の部	蠟燭の花に冷えゆく端居哉	花	植物
8458	大正8年	春の部	花の泥を厭ひ水ナ上遠くゆく	花	植物
8459	大正8年	春の部	此山を出でじと花に又思ふ	花	植物
8460	大正8年	春の部	大雨の中獨遊べり花の魂	花	植物
8462	大正8年	春の部	陽炎のまに / \ 遊ぶ魂を思ふ	陽炎	天文
8463	大正8年	春の部	花寒き心書樓にこもりけり	花	植物
8464	大正8年	春の部	田打ども我庭の花見て過ぐる	花	植物
8466	大正8年	春の部	花に來て蛙の客となりけり	花	植物
8468	大正8年	春の部	皆人の春惜む中の蛙哉	春惜む	時候
8637	大正9年	春の部	杉村や神のうがらのうらゝかに	麗	時候
8638	大正9年	春の部	神々に縄墨匂へ家の春	初春	時候
8639	大正9年	春の部	玉の如く春寒凝りて句録の句	春寒	時候
8640	大正9年	春の部	山際に片よりて梅の徑かな	梅	植物
8641	大正9年	春の部	梅一木二木や風邪もなき小村	梅	植物
8642	大正9年	春の部	梅早し何に驅け去る軍人	梅	植物
8643	大正9年	春の部	梅の老樹に近寄らで過ぐ里人よ	梅	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8644	大正9年	春の部	梅に月誰ぞ宿禽を驚かす	梅	植物
8645	大正9年	春の部	梅に管せず潭心の月に立つ	梅	植物
8646	大正9年	春の部	梅寒く苦吟曉に達しけり	梅	植物
8647	大正9年	春の部	瓶梅の蕾や苦吟夜を徹す	梅	植物
8648	大正9年	春の部	風邪入らぬ里の往來や梅の花	梅	植物
8649	大正9年	春の部	梅を遠く去るや柳を縮めべく	梅柳	植物
8650	大正9年	春の部	曉を啼くや梅の寒きに水鳥も	梅	植物
8651	大正9年	春の部	水鳥の孤獨となりぬ梅の花	梅	植物
8652	大正9年	春の部	古舊挨拶す梅の戸柳の門	梅柳	植物
8653	大正9年	春の部	桃夭々雛の主人のねびまさり	雛祭	人事
8654	大正9年	春の部	古雛にあるじまうけも無かりけり	雛祭	人事
8655	大正9年	春の部	かりそめの雛にかざやく灯かな	雛祭	人事
8656	大正9年	春の部	雛まつる大家の庭の闇深し	雛祭	人事
8657	大正9年	春の部	夜の雨襲ひ來にけり雛が宿	雛祭	人事
8658	大正9年	春の部	雛の間に狗吠鶏鳴聞えけり	雛祭	人事
8659	大正9年	春の部	料紙硯文したゝむる雛の前	雛祭	人事
8660	大正9年	春の部	雛を見て帰るさ眉のよな月が	雛祭	人事
8661	大正9年	春の部	門をなす柳に出入る雛の人	雛祭	人事
8662	大正9年	春の部	雛過ぎて更に活けたる桃白し	桃	植物
8664	大正9年	春の部	ゆく春の取つく物も無かりけり	行春	時候
8665	大正9年	春の部	誰と共に春を惜まん筆硯	春惜む	時候
8666	大正9年	春の部	ゆく春を大風吹いて籠りゐる	行春	時候
8771	大正10年	春の部	野路稀にゆく人や梅に管らず	梅	植物
8772	大正10年	春の部	自から起ちて探梅の糧作る	探梅	人事
8773	大正10年	春の部	梅さくやいかに傳へて古瓢	梅	植物
8774	大正10年	春の部	我をさけて苔はむ鳥や梅の花	梅	植物
8775	大正10年	春の部	梅寒うして暦日を過たず	梅	植物
8776	大正10年	春の部	梅の曙既に人ある麦島	梅	植物
8777	大正10年	春の部	梅寒し火箭の稽古の戻り人	梅	植物
8778	大正10年	春の部	人遠し梅蕾堅く水急に	梅	植物
8779	大正10年	春の部	梅柳日の景移る一郭	梅柳	植物
8780	大正10年	春の部	梅ちる軒海苔干す戸風平かに	梅	植物
8781	大正10年	春の部	木芽吹くや朝山越ゆるかしま立	木の芽	植物
8782	大正10年	春の部	顔回ハ學を好みり木芽和	木芽和	人事
8783	大正10年	春の部	藪木の芽赤くほぐれつ晝蛙	木の芽	植物
8784	大正10年	春の部	涅槃會大雨境内の木芽寒ム	木の芽	植物
8785	大正10年	春の部	ちよと摘みて / \ 木芽つみ憂かり	木の芽	植物
8786	大正10年	春の部	漣や橋の袂の木芽摘	木の芽	植物
8787	大正10年	春の部	木芽摘風に吹かれて唄ひをり	木の芽	植物
8788	大正10年	春の部	木芽照るや馬を走らす少年輩	木の芽	植物
8789	大正10年	春の部	谷水の日に減りて木芽ほうけたり	木の芽	植物
8790	大正10年	春の部	諸木の芽色づく見てや雁急ぐ	木の芽	植物
8791	大正10年	春の部	水に照る木芽や蘆はかれ / \ て	木の芽	植物
8792	大正10年	春の部	谷川の濁うすらぎて曉の花	花	植物
8793	大正10年	春の部	岩魚釣る人と相識らず山櫻	山櫻	植物
8794	大正10年	春の部	櫻狩劔客道を譲り去る	花見	人事
8795	大正10年	春の部	花ちるや手づから藏む古硯	落花	植物
8796	大正10年	春の部	燭を採れば花の筵の人空し	花見	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8797	大正10年	春の部	舊道や今を盛りの山櫻	山櫻	植物
8798	大正10年	春の部	旅人に花ふる里の荒にけり	花	植物
8799	大正10年	春の部	ちる花に斯松栽ゑし人を想ふ	落花	植物
8800	大正10年	春の部	花人を送りて蛙鳴出しぬ	花	植物
8801	大正10年	春の部	花に急ぐ人の絶間の陽炎よ	花	植物
8802	大正10年	春の部	花漬けて故人至るを待たん哉	花	植物
8804	大正10年	春の部	行春や足つまだつる山一ツ	行春	時候
8929	大正11年	春の部	彼岸近し人の子の目に杖なんど	彼岸	人事
8931	大正11年	春の部	紙鳶繪かく弟を見て物いはず	凧	人事
8932	大正11年	春の部	紙鳶の句に忍び雛の句に泣きぬ	凧	人事
8933	大正11年	春の部	紙鳶も揚り雪崩越え来し安堵哉	凧	人事
8934	大正11年	春の部	雪崩越えし安堵を揚る紙鳶	凧	人事
8935	大正11年	春の部	暮一人尚凧揚げむ風待ちぬ	凧	人事
8936	大正11年	春の部	繪凧持歸る枯木の奥の家	凧	人事
8937	大正11年	春の部	大鳥の抜羽を茲に草もゆる	草蒨	植物
8938	大正11年	春の部	樹の枝のかけ太やかに土ぬくき	暖	時候
8939	大正11年	春の部	鶯や例の端山に日の照りて	鶯	動物
8940	大正11年	春の部	むら杉を繞りて春の水光る	春の水	地理
8941	大正11年	春の部	衆禽は邇く鶯遐か也	鶯	動物
8942	大正11年	春の部	羽毛異なりて一樹に轉るよ	轉	動物
8943	大正11年	春の部	鳥下りて春の地息に浸りけり	春の土	地理
8944	大正11年	春の部	愁ひて書樓に在れば柳青し	柳	植物
8945	大正11年	春の部	山川の淵瀬久しき櫻哉	櫻	植物
8946	大正11年	春の部	春の夜の人を玉なる夢路哉	春夜	時候
8947	大正11年	春の部	時ありて巨人の影や蛙の子	蝌蚪	動物
8948	大正11年	春の部	朝ぼらけ大河隔てゝ雉子の聲	雉子	動物
8949	大正11年	春の部	木芽より雨の餘りて枯芝へ	木の芽	植物
8950	大正11年	春の部	したゝかに雨に打たるゝ堇哉	堇	植物
8951	大正11年	春の部	朝晴に袴干しけり土筆達	土筆	植物
8952	大正11年	春の部	碑の苔を掃はで久し春の雨	春雨	天文
8953	大正11年	春の部	朝霽や木芽潤ほし足らぬ雨	木の芽	植物
8954	大正11年	春の部	旦に出て夕に歸れば櫻哉	櫻	植物
8955	大正11年	春の部	陽炎に野をやく子等のかけめぐる	陽炎	天文
8956	大正11年	春の部	二三十の目高に田螺一ツかな	雑	雑
8957	大正11年	春の部	春雨や茸の事に立咄シ	春雨	天文
8959	大正11年	春の部	僧と地を指點す一鳥轉るに	轉	動物
8960	大正11年	春の部	この垣に五加木つみけむ昔かな	五加木	植物
8961	大正11年	春の部	花鳥や白骨うめん此ところ	花	植物
8962	大正11年	春の部	ねもごろに繕はしめつ五加木垣	五加木	植物
8963	大正11年	春の部	城の如く花の大樹の聳えけり	花	植物
8964	大正11年	春の部	春雨に潤ひ足りし大地哉	春雨	天文
8965	大正11年	春の部	春雨にひたぬれて巢の營か	春雨	天文
8966	大正11年	春の部	愁見る碑の舊苔や春の雨	春雨	天文
8967	大正11年	春の部	春の雨烟るが中の日は南	春雨	天文
8968	大正11年	春の部	春雨のまだきに晴れて日遍し	春雨	天文
8969	大正11年	春の部	春雨の夢を掠めて蚊の去りし	春雨	天文
8970	大正11年	春の部	春の雨晴るゝに近し日の朧	春雨	天文
8971	大正11年	春の部	はやうもれゆく骨壺や春の雨	春雨	天文

大正2年～大正11年

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8972	大正11年	春の部	白骨を埋むるに雨の落花哉	落花	植物
8973	大正11年	春の部	春雨や見るまにぬれし土饅頭	春雨	天文
8974	大正11年	春の部	春雨の自から垂る墓辺の樹	春雨	天文
8976	大正11年	春の部	一鍬の土にかげろふ畏さよ	陽炎	天文
8977	大正11年	春の部	さゝやかに虫巢ふ草芳しく	草芳し	植物
8978	大正11年	春の部	草芳しく女かほよし流レ水	草芳し	植物
8980	大正11年	春の部	悲しくも餘花の白さを眼睛に	餘花	植物
8982	大正11年	春の部	湖の魚飛を心に風光る	風光る	天文
8983	大正11年	春の部	行春の一日を聳ゆ雲の峰	行春	時候
8984	大正11年	春の部	牡丹さげて群衆にふれさせじとす	牡丹	植物
8985	大正11年	春の部	湖辺近くゆく / \ 春の草老いぬ	春の草	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7595	大正2年	夏の部	梅若葉斯人在焉と又思ふ	若葉	植物
7596	大正2年	夏の部	心相許す新樹の風の前(全縣青年大会)	新樹	植物
7598	大正2年	夏の部	梅黄ばむも待たざりし才を抱く君	梅の實	植物
7600	大正2年	夏の部	山の雄河の大幟立つところ	幟	人事
7604	大正2年	夏の部	家々祭る天神柿の青きにも	青柿	植物
7606	大正2年	夏の部	庭前を江湖に夏書すゝみけり	夏書	人事
7607	大正2年	夏の部	朴鳴りに清水得つ日を仰ぐ山	清水	地理
7608	大正2年	夏の部	焚火跡を山五月雨の漂はす	五月雨	天文
7609	大正2年	夏の部	館の跡見て藻の花の裏沼へ	藻の花	植物
7610	大正2年	夏の部	館の跡見巡りしつかれ更衣	更衣	人事
7611	大正2年	夏の部	さみだるゝ小家河童の宿にもや	五月雨	天文
7612	大正2年	夏の部	雲低し蓴舟と遠く見てすぎぬ	蓴菜	植物
7613	大正2年	夏の部	川狩の友まつ間登山の詩を作る	川狩	人事
7614	大正2年	夏の部	明日にせまる來遊の事風かほる	薰風	天文
7617	大正2年	夏の部	黄帷子着たり靈異記の一節を眼に	帷子	人事
7621	大正2年	夏の部	轉眼睛即ち萩たり桔梗たり	雑	雑
7623	大正2年	夏の部	水力の事語り尽く蝉の声	蝉	動物
7624	大正2年	夏の部	黙すれば涼し汝と枝蛙	涼し	時候
7625	大正2年	夏の部	瀧をうしろ炭やきと百合に問答す	滝	地理
7627	大正2年	夏の部	山鳥の羽搏を横に百合山路	百合	植物
7628	大正2年	夏の部	奥へ/ \ 蹄の跡を百合も見て	百合	植物
7629	大正2年	夏の部	滝の景を大きく説きつ山百合も	百合	植物
7630	大正2年	夏の部	百合の風人まつ心とぞなりぬ	百合	植物
7631	大正2年	夏の部	百合の句案明日又越えん山の事	百合	植物
7731	大正3年	夏の部	螢追へば螢追ふらしき人見えつ	螢	動物
7732	大正3年	夏の部	手親ら蚊やりして仰ぐ門大樹	蚊遣	人事
7733	大正3年	夏の部	彗星出るあたり見て涼しと思ふ	涼し	時候
7734	大正3年	夏の部	打水に花ほのかはゝき星出でむ	打水	人事
7735	大正3年	夏の部	青田ほとり碑の裏の文字名残よむ	青田	地理
7737	大正3年	夏の部	松を出て涼し竹に入る尚すゞし	涼し	時候
7738	大正3年	夏の部	虫干の綺羅を目に樹間飛ぶ雀	蟲干	人事
7792	大正4年	夏の部	梅雨雲に翔りて深山鳥の來る	梅雨雲	天文
7795	大正4年	夏の部	夜学用の薪朽ちたり桐の花	桐の花	植物
7796	大正4年	夏の部	百合咲くや水浴ひし馬の蹄鳴り	百合	植物
7944	大正5年	夏の部	餘花一樹山中の地氣もゆる也	餘花	植物
7945	大正5年	夏の部	若葉照りに干割るゝ薪山成せり	若葉	植物
7946	大正5年	夏の部	舟峽を上り螢に泊てにけり	螢	動物
7947	大正5年	夏の部	漁區の禁解けしに客や夏霞	夏霞	天文
7948	大正5年	夏の部	白雲青山幟立つ日かな	幟	人事
7949	大正5年	夏の部	杉深く我足跡に滴りぬ	滴り	地理
7950	大正5年	夏の部	毛虫ハ皆蓴麻に付けと思ふ	毛蟲	動物
7951	大正5年	夏の部	登臨の帽子吹かるゝ若葉哉	若葉	植物
7952	大正5年	夏の部	老鶯や人ハ泉に歩みよる	老鶯	動物
7953	大正5年	夏の部	獨力に岨道成りぬ青芒	青芒	植物
7954	大正5年	夏の部	初蟬や栽ゑし樹またく根づきたり	蟬	動物
7956	大正5年	夏の部	水草の尚生ひまさる五月雲	梅雨雲	天文
7957	大正5年	夏の部	よしのびて鳥來る朝や水の色	葦若葉	植物
7959	大正5年	夏の部	芍薬も見ず鶏のあはただし	芍薬	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7960	大正5年	夏の部	短夜の戸に物の苗くれに来る	短夜	時候
7961	大正5年	夏の部	鳴神の夜の間に芭蕉ほぐれたり	雷	天文
7963	大正5年	夏の部	夏の露と答ふるすべも知らざりき	夏の露	天文
7965	大正5年	夏の部	花菖蒲の笑むなべに汝が顔を見る	花菖蒲	植物
7966	大正5年	夏の部	青梅を見るや詩作の思立ち	梅の實	植物
7967	大正5年	夏の部	暑き日のたゞ中を燕閃きぬ	暑さ	時候
7968	大正5年	夏の部	六月の樹々の光に歩むかな	六月	時候
7969	大正5年	夏の部	青嵐の餘氣屢す讀書樓	青嵐	天文
7970	大正5年	夏の部	五月雨に籠り薬を點検す	五月雨	天文
7971	大正5年	夏の部	雲の峰を見る放參の法師原	雲の峰	天文
7972	大正5年	夏の部	眞清水に浸す我魚籃の魚光る	清水	地理
7973	大正5年	夏の部	夕立雲迫るに釣場守るかな	夕立	天文
7974	大正5年	夏の部	火を遁れて潜む毒蛾の明易き	短夜	時候
7975	大正5年	夏の部	早起瓜もぎに行けバ瓜の花	瓜の花	植物
7976	大正5年	夏の部	紫陽花に追へども去らぬ睡魔哉	紫陽花	植物
7977	大正5年	夏の部	清水溢れて大川に注ぐ也	清水	地理
7978	大正5年	夏の部	隣家の南瓜蔓垣を越来る	南瓜の花	植物
7979	大正5年	夏の部	蝉高樹吾兒あまりに小さき哉	蝉	動物
7980	大正5年	夏の部	潮引くが如炎天の暮にけり	炎天	天文
7981	大正5年	夏の部	水飯に水の出處の石を想ふ	水飯	人事
7984	大正5年	夏の部	打水に大地息づく木立かな	打水	人事
7985	大正5年	夏の部	柳低く早の土にしだれけり	早	天文
7986	大正5年	夏の部	照り砂に人の汗零つ胡麻の花	胡麻の花	植物
7987	大正5年	夏の部	わが一人行水了へつ秋隣	秋近し	時候
7988	大正5年	夏の部	雨を欲する人群がりぬ暮の星	旱	天文
8105	大正6年	夏の部	喬木の都となりぬ鯉幟	鯉幟	人事
8109	大正6年	夏の部	うの花の寒きが中に獨在らむ	卯の花	植物
8111	大正6年	夏の部	樹ハ喬木となりにけり更衣	更衣	人事
8112	大正6年	夏の部	短夜や靄の中なる川明り	短夜	時候
8113	大正6年	夏の部	五月雲過ぐる山又山の勢り	梅雨雲	天文
8114	大正6年	夏の部	新樹風あり書齋整頓す	新樹	植物
8115	大正6年	夏の部	一束の花苗土間の梅雨寒に	梅雨寒	時候
8116	大正6年	夏の部	桑の實や徑曲れば明るき野	桑の實	植物
8118	大正6年	夏の部	遠方の追悼會我に杜宇	時鳥	動物
8120	大正6年	夏の部	如意一揮青梅故の如く也	梅の實	植物
8123	大正6年	夏の部	蛸の中に皆目覚め居り水の音	蚊帳	人事
8124	大正6年	夏の部	蝉の聲水の音人々の耳	蝉	動物
8125	大正6年	夏の部	書中句々皆我を責む雲の峰	雲の峰	天文
8126	大正6年	夏の部	夕蟬に水明り舟岸につく	蟬	動物
8128	大正6年	夏の部	橋渡る人の顔や夏の月	夏の月	天文
8130	大正6年	夏の部	鳥人の踵をかへす雲涼し	涼し	時候
8131	大正6年	夏の部	露涼しく今朝又一花開きけり	夏の露	天文
8132	大正6年	夏の部	前栽に灌ぐ水足る涼しさよ	涼し	時候
8133	大正6年	夏の部	石の為めに湛へ流るゝ清水哉	清水	地理
8134	大正6年	夏の部	草刈の日裏に刈るやきりたす	草刈	人事
8136	大正6年	夏の部	愛著の焰の外の夏花かな	夏花	人事
10512	大正6年	夏の部	竹揺れて湖も見えけり夕納涼	夕涼	天文
10658	大正6年	夏の部	竹揺れて湖も見えけり夕涼み	夕涼	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8274	大正7年	夏の部	脈々の靈氣相知る樹々若葉	若葉	植物
8275	大正7年	夏の部	家々やおのれ引來て菖蒲葺く	菖蒲葺	人事
8276	大正7年	夏の部	葉櫻や逢はまく思ふ人遠き	葉櫻	植物
8277	大正7年	夏の部	大樹なれば鬱々として青嵐	青嵐	天文
8279	大正7年	夏の部	櫻若葉柩に紅き蕊の降る	若葉	植物
8281	大正7年	夏の部	さみだるゝ中やあまりに小さき塚	五月雨	天文
8282	大正7年	夏の部	五月雨の山際あかし夜明かも	五月雨	天文
8283	大正7年	夏の部	五月雨の道の焚火に旅人かな	五月雨	天文
8284	大正7年	夏の部	群木相倚りて五月雨地を流る	五月雨	天文
8285	大正7年	夏の部	さみだれの地に印す馬の蹄かな	五月雨	天文
8286	大正7年	夏の部	山越やさみだるゝ中に餉くふ	五月雨	天文
8287	大正7年	夏の部	牡丹蕊のみこの國のさみたれに	五月雨	天文
8288	大正7年	夏の部	さみだるゝ頃の獸に夜の人	五月雨	天文
8289	大正7年	夏の部	さみだれの髓にやしまむ古芭蕉	五月雨	天文
8290	大正7年	夏の部	五月雨に遠く齎らしぬ花菖蒲	五月雨	天文
8292	大正7年	夏の部	湖の方へ薄暑の車吹かれけり	薄暑	時候
8294	大正7年	夏の部	墓の前に我が立つ葭切も啼かず	行々子	動物
8296	大正7年	夏の部	夏草のかきわくべくもあらぬ哉	夏草	植物
8298	大正7年	夏の部	我が出し山やつゆ雲かゝりゐる	梅雨雲	天文
8299	大正7年	夏の部	深山鳥姿あり / \ とつゆ寒に	梅雨寒	時候
8300	大正7年	夏の部	つゆ雲や波平らかに湖の神	梅雨雲	天文
8301	大正7年	夏の部	つゆ冥し驛樹行人友の如く	梅雨	天文
8302	大正7年	夏の部	梅雨空や矢場の草を等閑に	梅雨空	天文
8304	大正7年	夏の部	朝日子の出づる國也幟竿	幟	人事
8306	大正7年	夏の部	蚤よ蚊よと物思ふ違なかりけり	雑	雑
8308	大正7年	夏の部	頌曰紙魚遊ぶところ亦江山	紙魚	動物
8309	大正7年	夏の部	水饒かに木々吸い剩す涼しさよ	涼し	時候
8310	大正7年	夏の部	葛藟を手繰りをり山人涼し	涼し	時候
8311	大正7年	夏の部	一輪の花日の夕を涼しくす	涼し	時候
8312	大正7年	夏の部	山里ハ美婦の行くさへ涼しかり	涼し	時候
8313	大正7年	夏の部	月の出をまつ人々に山涼し	涼し	時候
8314	大正7年	夏の部	山陰の雷鳴簾吹く涼し	涼し	時候
8315	大正7年	夏の部	涼しさに伸びて夜明の瓜の花	涼し	時候
8316	大正7年	夏の部	心涼し南瓜の花の大なるも	涼し	時候
8317	大正7年	夏の部	打水に得堪へで涼し花細か	涼し	時候
8318	大正7年	夏の部	宿の灯の涼し登山のかしま立	涼し	時候
8319	大正7年	夏の部	かゝる難所を剛力と行く涼し	涼し	時候
8320	大正7年	夏の部	剛力は木石の如く涼しけれ	涼し	時候
8321	大正7年	夏の部	難所涼し剛力も巖石の如	涼し	時候
8322	大正7年	夏の部	祠涼しく初茄子献げたる	涼し	時候
8323	大正7年	夏の部	大川の出水定まる夕涼し	涼し	時候
8324	大正7年	夏の部	郡集に足りて濁らず山清水	清水	地理
8325	大正7年	夏の部	壯校の手々の刃物や山清水	清水	地理
8470	大正8年	夏の部	葩を斂めて牡丹晩に在り	牡丹	植物
8471	大正8年	夏の部	牡丹深沈吾ひとり近寄りぬ	牡丹	植物
8472	大正8年	夏の部	牡丹大方崩れ物の音もなし	牡丹	植物
8473	大正8年	夏の部	庭荒れしがまゝに牡丹ちり尽す	牡丹	植物
8474	大正8年	夏の部	薯山の如し夏野の一家族	夏野	地理

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8475	大正8年	夏の部	藪中に奔馬を避くる夏野哉	夏野	地理
8476	大正8年	夏の部	鑛脈のいづち走れる夏野哉	夏野	地理
8477	大正8年	夏の部	水に生きて人現はれし夏野哉	夏野	地理
8478	大正8年	夏の部	只一人雷雨を冒す夏野哉	夏野	地理
8479	大正8年	夏の部	夏野ゆきつくしぬ大河横はり	夏野	地理
8480	大正8年	夏の部	夏野ゆくや注ぎ遍き雨の中	夏野	地理
8481	大正8年	夏の部	夏野年々草に朽ちゆく招魂標	夏野	地理
8482	大正8年	夏の部	火の如く雨蒸れ騰る夏野哉	夏野	地理
8483	大正8年	夏の部	雲冥し夏野に隔つ海の音	夏野	地理
8484	大正8年	夏の部	暮歩々に草の香沈む夏野哉	夏野	地理
8485	大正8年	夏の部	奔馬避けて夏野に立つや風斜	夏野	地理
8487	大正8年	夏の部	蚊遣火の消えしがまゝや佛の灯	蚊遣	人事
8491	大正8年	夏の部	苺摘来て歸省の兄に分ちけり	苺	植物
8493	大正8年	夏の部	苺に汗零つ午や子待つらむ	苺	植物
8494	大正8年	夏の部	苺摘む童と見ゆれ日は斜	苺	植物
8495	大正8年	夏の部	露の葉をこぼれて苺水に在り	苺	植物
8496	大正8年	夏の部	悼亡の句作や苺盛りたるに	苺	植物
8497	大正8年	夏の部	人知らぬ苺に寄りつ閑古鳥	苺	植物
8498	大正8年	夏の部	深山路や苺たわゝに靄上る	苺	植物
8500	大正8年	夏の部	笠打敷けバ泪こぼれぬ苺	苺	植物
8501	大正8年	夏の部	苺嗜む賓人なれや草の宿	苺	植物
8502	大正8年	夏の部	誰をか怨む虫くひ苺弾きつゝ	苺	植物
8504	大正8年	夏の部	函打開くなみみる人の涼しげに	涼し	時候
8505	大正8年	夏の部	つゆけしやよべの蚊遣のあまり草	蚊遣	人事
8506	大正8年	夏の部	どさと置く蚊遣草夕山おろし	蚊遣	人事
8507	大正8年	夏の部	例年の南瓜棚花盛り也	南瓜の花	植物
8508	大正8年	夏の部	紙魚はたく姿を人に見られけり	紙魚	動物
8510	大正8年	夏の部	物々しく虎杖暑し館ノ下	暑さ	時候
8511	大正8年	夏の部	早魃の樹々騒がして朝嵐	早	天文
8512	大正8年	夏の部	野人憩へるに青芒すく日哉	青芒	植物
8668	大正9年	夏の部	はつ蟬や雑木もる日の明るさに	蟬	動物
8669	大正9年	夏の部	鶯の老いて谷水湧きやまず	老鶯	動物
8670	大正9年	夏の部	五月雨の麻も蓬も屈む哉	五月雨	天文
8671	大正9年	夏の部	五月雨の漏りふたぐすべも無かりけり	五月雨	天文
8673	大正9年	夏の部	向上の一路を得たり山清水	清水	地理
8674	大正9年	夏の部	きそひ蕃る梢に近し夏の月	夏の月	天文
8675	大正9年	夏の部	寺山の蟬や即ち大般若	蟬	動物
8676	大正9年	夏の部	蟬近し水草しげる水の上	蟬	動物
8677	大正9年	夏の部	書卷山の如蟬鳴く庭浅し	蟬	動物
8678	大正9年	夏の部	蟬鳴くや鬱然として書樓の書	蟬	動物
8680	大正9年	夏の部	蟬涼し共に倚りそふ杉木立	蟬	動物
8681	大正9年	夏の部	蟬涼し一路直ちに山門へ	蟬	動物
8683	大正9年	夏の部	夏草に溢るゝとなし雨そゝぐ	夏草	植物
8684	大正9年	夏の部	晝顔や雨去てたまり水の澄む	晝顔	植物
8685	大正9年	夏の部	夕の花概ね白き夏野哉	夏野	地理
8686	大正9年	夏の部	濱草の名を問ふ旅の愁かな	雑	雑
8687	大正9年	夏の部	松間に崩れて白し土用浪	土用浪	地理
8688	大正9年	夏の部	汐虫も出て遊ぶ湖辺涼しきに	涼し	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8689	大正9年	夏の部	夙に起きて花を愛すや青簾	青簾	人事
8690	大正9年	夏の部	談笑朗かに聞ゆ青簾	青簾	人事
8691	大正9年	夏の部	海を見て客と帰りぬ青簾	青簾	人事
8692	大正9年	夏の部	江山の一幅古し青簾	青簾	人事
8693	大正9年	夏の部	汐鳴の幽かになりぬ青簾	青簾	人事
8694	大正9年	夏の部	小酒賣る庭浄めたり百日紅	百日紅	植物
8806	大正10年	夏の部	上人の飛錫杳かや閑古鳥	閑古鳥	動物
8807	大正10年	夏の部	心當てに泉尋ねん閑古鳥	閑古鳥	動物
8808	大正10年	夏の部	閑古鳥あからさまなり軒端山	閑古鳥	動物
8809	大正10年	夏の部	閑古啼くや深山薊の花の色	閑古鳥	動物
8810	大正10年	夏の部	山人の口訥なれや閑古鳥	閑古鳥	動物
8811	大正10年	夏の部	萬木の午睡る也閑古鳥	閑古鳥	動物
8812	大正10年	夏の部	閑古鳥風に吹かれて飛にけり	閑古鳥	動物
8813	大正10年	夏の部	採桑か狂女かあらず閑古鳥	閑古鳥	動物
8814	大正10年	夏の部	雲の冷え艸木に垂れつ閑古鳥	閑古鳥	動物
8815	大正10年	夏の部	山の僧が例の悪詩や閑古鳥	閑古鳥	動物
8817	大正10年	夏の部	稀に見るつゝじ爛れつ酒の酔	躑躅	植物
8818	大正10年	夏の部	咲き残るつゝじを尋ねありきけり	躑躅	植物
8819	大正10年	夏の部	崇山や五月の會の人少な	五月	時候
8820	大正10年	夏の部	鋤鋤禾の處を得たり雑煮くふ	雑煮	人事
8821	大正10年	夏の部	麦秋や枇杷の樹下の讀書人	麦の秋	時候
8822	大正10年	夏の部	麦秋に僧を招じてひそかなる	麦の秋	時候
8823	大正10年	夏の部	麦秋の日黄也大戦の後	麦の秋	時候
8824	大正10年	夏の部	麦秋を出生又も女の子	麦の秋	時候
8825	大正10年	夏の部	一方の雲の爛れや麦の秋	麦の秋	時候
8826	大正10年	夏の部	麦秋の黎明はやも立咄	麦の秋	時候
8827	大正10年	夏の部	麦秋や我等寄進の鐘が鳴る	麦の秋	時候
8828	大正10年	夏の部	細道や関の清水の麦埃	麦の秋	時候
8829	大正10年	夏の部	崇山を望む麦秋の事終へて	麦の秋	時候
8830	大正10年	夏の部	眼前に祭迫りぬ麦埃	麦の秋	時候
8831	大正10年	夏の部	晝顔や何に依々たる日傘人	日傘	人事
8832	大正10年	夏の部	立寄れば日傘を透す蝉しぐれ	日傘	人事
8833	大正10年	夏の部	日傘置けば毛虫這よる草の上	日傘	人事
8834	大正10年	夏の部	梅黄む家の子供の日傘かな	日傘	人事
8835	大正10年	夏の部	雨上りの日傘眩ゆし蝸牛	日傘	人事
8836	大正10年	夏の部	祇王寺を離るゝ日傘一ツ哉	日傘	人事
8837	大正10年	夏の部	日傘たゝみ水際に顔を並べけり	日傘	人事
8838	大正10年	夏の部	青空のいや遠々し日傘人	日傘	人事
8839	大正10年	夏の部	露畠の大路見居り日傘人	日傘	人事
8840	大正10年	夏の部	草の丈舊蹟なれば日傘人	日傘	人事
8841	大正10年	夏の部	六月の草木照合ふ日傘哉	日傘	人事
8842	大正10年	夏の部	少女ぶり日傘の色の濃かに	日傘	人事
8843	大正10年	夏の部	象潟の森の松かげ日傘見ゆ	日傘	人事
8844	大正10年	夏の部	紺碧の湖に泛べる日傘哉	日傘	人事
8846	大正10年	夏の部	人の子や薫れと祈る蚊遣草	蚊遣	人事
8847	大正10年	夏の部	名所の鹿の子近寄る日傘哉	日傘	人事
8987	大正11年	夏の部	初幟己れ生れて重右エ門	幟	人事
8989	大正11年	夏の部	青梅の枝さし伸べし書齋哉	梅の實	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8990	大正11年	夏の部	松落葉つもりて久し松の色	松落葉	植物
8992	大正11年	夏の部	湖濶けたり一むら葦の若葉より	葦若葉	植物
8993	大正11年	夏の部	文晁居の主人と知りて行々子	行々子	動物
8995	大正11年	夏の部	牡丹見て一詩を成さず酒の悔	牡丹	植物
8997	大正11年	夏の部	繩墨の痕鮮かに風薫る	薫風	天文
8998	大正11年	夏の部	青梅や眞晝啼去る杜宇	梅の實	植物
8999	大正11年	夏の部	青梅の枝葉もる日や美少年	梅の實	植物
9000	大正11年	夏の部	青梅や霽るゝ慣ひの雲の峰	梅の實	植物
9001	大正11年	夏の部	青梅や日に / \ 雲の峰づくり	梅の實	植物
9002	大正11年	夏の部	青梅や客の驚く流れ水	梅の實	植物
9003	大正11年	夏の部	人の子ハ着飾り來梅黄む頃	梅の實	植物
9004	大正11年	夏の部	青梅に着飾りありく人の子よ	梅の實	植物
9005	大正11年	夏の部	青梅の林に入りぬ輕き汗	梅の實	植物
9006	大正11年	夏の部	青梅や長男臥病家に在り	梅の實	植物
9007	大正11年	夏の部	青梅の古幹かくす草の丈	梅の實	植物
9008	大正11年	夏の部	青梅をゆさぶり去りぬ朝嵐	梅の實	植物
9012	大正11年	夏の部	二十年家郷を出でず花茨	茨の花	植物
9013	大正11年	夏の部	思寝の蝸に目覚めて夢暗し	蚊帳	人事
9014	大正11年	夏の部	桑の実に稚き頃の面ざしも	桑の實	植物
9016	大正11年	夏の部	遠く之を望む一木の茂り哉	茂り	植物
9020	大正11年	夏の部	うろくづと生れ変らば涼しかる	涼し	時候
9021	大正11年	夏の部	雨乞の験もなしに明易き	短夜	時候
9022	大正11年	夏の部	明易き樹や海鳥の假宿り	短夜	時候
9023	大正11年	夏の部	短夜や既に根つきし物の苗	短夜	時候
9024	大正11年	夏の部	短夜をなど燕雀のかしましき	短夜	時候
9025	大正11年	夏の部	短夜や磯の祭の朝篝	短夜	時候
9026	大正11年	夏の部	明易き耳を貫く矢聲哉	短夜	時候
9027	大正11年	夏の部	妻が炊ぐ一日の糧や明易き	短夜	時候
9028	大正11年	夏の部	問答は了る青山明易き	短夜	時候
9029	大正11年	夏の部	短夜や虫の骸のさながらに	短夜	時候
9031	大正11年	夏の部	灯籠を見るものにせん淺き庭	燈籠	人事
9032	大正11年	夏の部	唐黍の間ひに低し雲の峰	雲の峰	天文
9033	大正11年	夏の部	赤鬼のよち登る見ゆ雲の峰	雲の峰	天文
9034	大正11年	夏の部	雲の峰暮れて稻妻起りけり	雲の峰	天文
9035	大正11年	夏の部	雲の峰顔れかゝりし伏家哉	雲の峰	天文
9036	大正11年	夏の部	雲の峰をよそに麻引き進むかな	雲の峰	天文
9037	大正11年	夏の部	諸子百家文庫の窓の雲の峰	雲の峰	天文
9038	大正11年	夏の部	登山衆の後ろに聳ゆ雲の峰	雲の峰	天文
9039	大正11年	夏の部	草臥れて行手に遠し雲の峰	雲の峰	天文
9040	大正11年	夏の部	東京の方に当りて雲の峰	雲の峰	天文
9041	大正11年	夏の部	雲の峰崩れて消えて星一ツ	雲の峰	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7633	大正2年	秋の部	水に降る露かあらぬか夜の音	露	天文
7635	大正2年	秋の部	瀑布の句百合の句酒の句となりぬ	雑	雑
7636	大正2年	秋の部	筆把れば書かざるまい踊るもの	踊	人事
7637	大正2年	秋の部	一語君に寄す秋涼しかろ / \	新涼	時候
7639	大正2年	秋の部	巖怒り水激す秋をはしる雲	秋	時候
7640	大正2年	秋の部	筆下虹あり秋の水飛ぶ五十尺	秋の水	地理
7642	大正2年	秋の部	この道のこの記事涼し潮の香	涼し	時候
7644	大正2年	秋の部	あらまほしきもの水引の花さへも	水引花	植物
7645	大正2年	秋の部	つぶて雲白し朝露晞きあり	露	天文
7647	大正2年	秋の部	芭蕉我を覆ふあり月の食を見る	芭蕉	植物
7648	大正2年	秋の部	稲黄ばめり日に漂へる雲一片	稲	植物
7650	大正2年	秋の部	野菊晴れて文庫の本を借來る	野菊	植物
7651	大正2年	秋の部	薪割りし筋の痛ミや秋の暮	秋の暮	時候
7652	大正2年	秋の部	物思ひ夜の芭蕉に手を觸るゝ	芭蕉	植物
7653	大正2年	秋の部	薪干して子等を使役す秋の風	秋の風	天文
7654	大正2年	秋の部	遠足帰り貝殻に又灯す秋	秋の灯	人事
7655	大正2年	秋の部	遠足の貝殻も夜寒山どころ	夜寒	時候
7657	大正2年	秋の部	驛樹晴れて友の話端を飛ぶ蜻蛉	蜻蛉	動物
7658	大正2年	秋の部	驛の樹を緒に情話飛ぶとんぼ	蜻蛉	動物
7659	大正2年	秋の部	秋出水丘の狐の憎まるゝ	秋出水	地理
7660	大正2年	秋の部	菊の竹に小鳥來つ風に又去りつ	小鳥	動物
7661	大正2年	秋の部	新酒甕に盈てり家訓壁にあり	新酒	人事
7662	大正2年	秋の部	師弟黙す栗のいが道墓辺道	栗	植物
7663	大正2年	秋の部	端近の新米後の月夜なる	新米	人事
7665	大正2年	秋の部	菊の戸明し家訓長へに在り	菊	植物
7667	大正2年	秋の部	菊の林酒の泉をためしとて	菊	植物
7740	大正3年	秋の部	天子赫怒秋風吹て雲飛揚	秋の風	天文
7741	大正3年	秋の部	豊年の蓼も野菊も盛哉	豊年	人事
7742	大正3年	秋の部	只芭蕉葉の聲をきく星月夜	星月夜	天文
7743	大正3年	秋の部	高灯籠の下を流るゝ水の音	燈籠	人事
7744	大正3年	秋の部	秋風やあからさまなる薬艸	秋の風	天文
7745	大正3年	秋の部	日々好日と杉の實干してあり	杉の實	植物
7746	大正3年	秋の部	一別以來消息もなし蚊帳名残	秋の蚊帳	人事
7747	大正3年	秋の部	白と明け黄と暮るゝ菊に無事の家	菊	植物
7748	大正3年	秋の部	菊日和稲埃人馬驚かず	菊	植物
7749	大正3年	秋の部	菊風雨戦場こゝを去る遠し	菊	植物
7750	大正3年	秋の部	巻を掩へば庭前芭蕉裂くる音	破れ芭蕉	植物
7798	大正4年	秋の部	秋暑く栖む野の禽や羽虫見て	残暑	時候
7799	大正4年	秋の部	戸口掩ふ芭蕉の野分獨在り	野分	天文
7801	大正4年	秋の部	峯を離れし雲の行方や秋の水	秋の水	地理
7802	大正4年	秋の部	天子長壽を嘉し給へり菊の花	菊	植物
7803	大正4年	秋の部	菊の香や天杯下る賤が宿	菊	植物
7804	大正4年	秋の部	民もろ / \ 国中の菊の花に酔ふ	菊	植物
7805	大正4年	秋の部	菊の露をくすりと今日の壽詞哉	菊	植物
7806	大正4年	秋の部	老も病も吉日足日と菊に起つ	菊	植物
7807	大正4年	秋の部	菊尊黒酒白酒に耀けり	菊	植物
7808	大正4年	秋の部	舟はてゝ名月の帆をたゝみけり	名月	天文
7809	大正4年	秋の部	朝戸出の馬の肥へたり露しぐれ	露しぐれ	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7810	大正4年	秋の部	海山の幸に菊照る國中哉	菊	植物
7811	大正4年	秋の部	民もろ / \ 菊といふ菊に酔にけり	菊	植物
7812	大正4年	秋の部	漁者樵者一輪の菊を仰ぎけり	菊	植物
7813	大正4年	秋の部	山量りの果の光拜みぬ	木の實	植物
7814	大正4年	秋の部	高光る日を浴びて新藁の山	新藁	人事
7816	大正4年	秋の部	酒は古く鯨を老とや來山忌	鯨	動物
7817	大正4年	秋の部	天津日の力を樹植う露しぐれ	露しぐれ	天文
7824	大正4年	秋の部	庭落葉渦いてやがて音もなし	落葉	植物
7825	大正4年	秋の部	報賽の又仰ぐ鐘やかへり花	歸り花	植物
7990	大正5年	秋の部	脛に草露や晨の鶏の聲	露	天文
7991	大正5年	秋の部	提灯に稻葉の露よ家に入る	露	天文
7992	大正5年	秋の部	魂棚の蓮も供物も干からびぬ	魂祭	人事
7993	大正5年	秋の部	喫茶帰路につく霧の月白し	霧	天文
7994	大正5年	秋の部	相撲見の早発ゆゝし霧の中	霧	天文
7996	大正5年	秋の部	比枝を左に老鶯や晝の月	老鶯	動物
7998	大正5年	秋の部	秋風に鞭うたれたる藜かな	秋の風	天文
8000	大正5年	秋の部	秋風にふるゝもの皆傷む哉	秋の風	天文
8002	大正5年	秋の部	秋風や父なる人の懷に	秋の風	天文
8004	大正5年	秋の部	山寺や木兎に石打つ秋の風	秋の風	天文
8005	大正5年	秋の部	秋風に偃す草起す獨哉	秋の風	天文
8006	大正5年	秋の部	白木槿言葉短く別れけり	木槿	植物
8007	大正5年	秋の部	野菊咲いて税吏至らぬ里もなし	野菊	植物
8008	大正5年	秋の部	鶏頻りに鳴いて朝露乾きけり	露	天文
8009	大正5年	秋の部	このあたりの草花折來糸瓜佛	草花	植物
8010	大正5年	秋の部	鯨釣の後に高き穂蓼哉	鯨釣	人事
8011	大正5年	秋の部	釣竿の長さ短き飛蜻蛉	蜻蛉	動物
8012	大正5年	秋の部	名月に小園の花ありやなし	名月	天文
8013	大正5年	秋の部	燕行く頃鬼灯の色づきぬ	鬼灯	植物
8014	大正5年	秋の部	蠅の別レ山上海を望みし今日	秋の蚊帳	人事
8015	大正5年	秋の部	客已に海越えつらむ扇置く	秋扇	人事
8016	大正5年	秋の部	路傍の紫蘇の香高く秋の風	秋の風	天文
8017	大正5年	秋の部	草花の残り少や雨に飽く	草花	植物
8018	大正5年	秋の部	掛稻に白雲高し山郭	掛稻	人事
8019	大正5年	秋の部	菊高く開かむとする山郭	菊	植物
8020	大正5年	秋の部	菊畑に立てバ風吹く衣かな	菊	植物
8021	大正5年	秋の部	菊の花高さを眉と齊うす	菊	植物
8022	大正5年	秋の部	風に吹かれ行く / \ 落穂拾ふ哉	落穂	植物
8023	大正5年	秋の部	谿水の里川となりぬ戸々の菊	菊	植物
8024	大正5年	秋の部	菊を見て安息日の講話哉	菊	植物
8025	大正5年	秋の部	草の実の各がじしゑむ徑かな	草の實	植物
8026	大正5年	秋の部	尾花くゞる小禽の行方曇りけり	芒	植物
8027	大正5年	秋の部	兒の群に吾兒の見えつ柿紅葉	柿紅葉	植物
8028	大正5年	秋の部	掲示板に夜學の事や柿紅葉	柿紅葉	植物
8029	大正5年	秋の部	串柿と栗の穂と日当る方の軒	雑	雑
8138	大正6年	秋の部	君が歌のさまに花咲く草の丈	草花	植物
8139	大正6年	秋の部	魂まつる花になりゆくや一穂草	魂祭	人事
8140	大正6年	秋の部	虫鳴けバしばらく虫の世界かな	蟲	動物
8141	大正6年	秋の部	初秋の空はしり雲斜なり	初秋	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8142	大正6年	秋の部	唐黍の葉に露上る夕餐かな	唐黍	植物
8144	大正6年	秋の部	新涼に夙起の煙藪をもる	新涼	時候
8145	大正6年	秋の部	新涼の小石や夜雨に露はれし	新涼	時候
8146	大正6年	秋の部	高山に神鳴りて角力盛也	角力	人事
8147	大正6年	秋の部	角力觀に山の奥より至りけり	角力	人事
8148	大正6年	秋の部	吾家の子が泣く聲や天の川	天の川	天文
8149	大正6年	秋の部	藪に家す人の起居や天の川	天の川	天文
8150	大正6年	秋の部	虫鳴くに熟睡しにけり帰省の子	蟲	動物
8151	大正6年	秋の部	晝の虫鳴いて香煙ますぐ也	蟲	動物
8152	大正6年	秋の部	鯉の子に翡翠飛べり稲の花	稲の花	植物
8153	大正6年	秋の部	材木を引くやとゞろと稲の花	稲の花	植物
8154	大正6年	秋の部	南瓜の花大きく咲いて霧あがる	霧	天文
8156	大正6年	秋の部	遠忌夜話露下る雨の如し	露	天文
8157	大正6年	秋の部	秋雨に撲たるゝ草の項かな	秋の雨	天文
8158	大正6年	秋の部	新涼に生れかはりし目鼻哉	新涼	時候
8159	大正6年	秋の部	あれ見よや汝に飛來る赤蜻蛉	赤蜻蛉	動物
8160	大正6年	秋の部	秋風や農事講話の人少な	秋の風	天文
8161	大正6年	秋の部	桐の葉越し黒雲すぐる夜半の秋	秋の夜	時候
8162	大正6年	秋の部	鰯賣見つゝや稗田刈急ぐ	稗	植物
8164	大正6年	秋の部	故人をまのあたり「野草花開」の語	草花	植物
8165	大正6年	秋の部	憎むべき毛虫はたきつ秋の風	秋の風	天文
8166	大正6年	秋の部	草花の種採り採らず秋しぐれ	秋時雨	天文
8167	大正6年	秋の部	風蕭颯たり南瓜棚ほぐす	南瓜	植物
8171	大正6年	秋の部	淋しき草悲しき草も咲きにけり	草花	植物
8172	大正6年	秋の部	秋風の吹いて紫蘇の實扱きこぼす	秋の風	天文
8174	大正6年	秋の部	穂芒も少なに雨の月の前	雨の月	天文
8175	大正6年	秋の部	樹枝飛んで野分の人の顔傷む	野分	天文
8176	大正6年	秋の部	野分吹けども動かざる雲高し	野分	天文
8177	大正6年	秋の部	飄々と野分の花をくゝりけり	野分	天文
8179	大正6年	秋の部	靡く尾花を劍とも見む晴あり	芒	植物
8181	大正6年	秋の部	通草藪へ我よりも先に小禽かな	通草	植物
8182	大正6年	秋の部	秋風に馳下りけり暮るゝ山	秋の風	天文
8183	大正6年	秋の部	草臥れし裳の草の實に家の灯よ	草の實	植物
8185	大正6年	秋の部	吾大君にさゝぐべき菊開きけり	菊	植物
8186	大正6年	秋の部	山に對して歌無からめや菊佳節	明治節	人事
8187	大正6年	秋の部	佳節ほぐ子等也柿の小路より	明治節	人事
8188	大正6年	秋の部	穀物の地に墜つ悲し暮るゝ秋	暮の秋	時候
10511	大正6年	秋の部	吹く風の音さへ竹の秋ごゝろ	秋	時候
10659	大正6年	秋の部	吹く風の音さへ竹の秋ごころ	秋ごころ	天文
8327	大正7年	秋の部	石の秘の三千年や葛の花	葛の花	植物
8328	大正7年	秋の部	秋淺し藪伐れば栗の青毬も	秋淺し	時候
8329	大正7年	秋の部	實をもちて秋草となりぬ深山はや	秋の草	植物
8330	大正7年	秋の部	山道に憩へば秋の雲の影	秋の雲	天文
8331	大正7年	秋の部	花葛に身を没しけり道しるべ	葛の花	植物
8332	大正7年	秋の部	一竿を収めて霧のあがる見る	霧	天文
8333	大正7年	秋の部	鶏頭や今し釣來て小鯊焼く	鶏頭	植物
8335	大正7年	秋の部	秋風や一時にかゞむ草の骨	秋の風	天文
8337	大正7年	秋の部	新涼や骨輕々と鶴の如	新涼	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8338	大正7年	秋の部	露けしや折りたく柴の乏しきに	露	天文
8339	大正7年	秋の部	満ちこぼるゝ一朝の露に目を張りぬ	露	天文
8340	大正7年	秋の部	祖父と孫としとゝ露けき草履哉	露	天文
8341	大正7年	秋の部	月一川鯊釣何ぞ歸らざる	鯊釣	人事
8342	大正7年	秋の部	月逾々蕎麦畑白し山廓	蕎麥花	植物
8343	大正7年	秋の部	東山の月に應對す讀書樓	月	天文
8344	大正7年	秋の部	來ぬ友の遠し無月の灯を挑ぐ	無月	天文
8345	大正7年	秋の部	すさましや露ふる樹下の破床几	露	天文
8346	大正7年	秋の部	夕草の咲き活きて月の出を望む	月	天文
8347	大正7年	秋の部	庭の月に見入れバ櫻落葉かな	月	天文
8348	大正7年	秋の部	夜半風起り無月の雲を掃ふ	無月	天文
8349	大正7年	秋の部	雨戸引けバ燈火無月の供物哉	無月	天文
8350	大正7年	秋の部	村のためこぞる青年や月の秋	月	天文
8351	大正7年	秋の部	一樹の影河心に届る月の前	月	天文
8352	大正7年	秋の部	月光に堪へて桐の葉の音もなし	月	天文
8353	大正7年	秋の部	夜長語る遠足の子の寝入りたり	夜長	時候
8354	大正7年	秋の部	星高し夜長の露の降りまさる	夜長	時候
8355	大正7年	秋の部	鱸獲し父を待ち得たり夜長の灯	夜長	時候
8356	大正7年	秋の部	フト覚むれバ尚靱磨の夜長なる	夜長	時候
8357	大正7年	秋の部	晝見し海を眼に夜長の室に在り	夜長	時候
8358	大正7年	秋の部	雨風や怖るともなく夜長守る	夜長	時候
8359	大正7年	秋の部	山の果の朱に紫に夜長の灯	夜長	時候
8360	大正7年	秋の部	夜長知らでうまみしにけり子等が國	夜長	時候
8361	大正7年	秋の部	夜長なる櫂の葉風の止まぬ哉	夜長	時候
8362	大正7年	秋の部	夜長歸る我に門樹のだまり立つ	夜長	時候
8363	大正7年	秋の部	夜長うして登高の苞披かれし	夜長	時候
8364	大正7年	秋の部	後の月も雨に夜長の獨哉	夜長	時候
8365	大正7年	秋の部	著るく飲けゆく月に夜々長き	夜長	時候
8366	大正7年	秋の部	紅葉ます / \ 濃く水いよ / \ 澄む	紅葉	植物
8367	大正7年	秋の部	白雲の浮べるまゝや草錦	草錦	植物
8368	大正7年	秋の部	家まばら石高道に柳散る	柳散る	植物
8370	大正7年	秋の部	幸にして菊尚枯れずあり	菊	植物
8371	大正7年	秋の部	落穂食む一鳥我に驚かず	落穂	植物
8514	大正8年	秋の部	花火消えて家路を思ふ三十里	花火	人事
8516	大正8年	秋の部	皆飛ぶに我もまじりぬ稻雀	稻雀	動物
8517	大正8年	秋の部	職人が早起きて居り露の中	露	天文
8518	大正8年	秋の部	鉄負ひしかぬちと逢ひぬ女郎花	女郎花	植物
8519	大正8年	秋の部	蟬鳴て驛道近し峠道	蟬	動物
8520	大正8年	秋の部	新涼に堪へて云ひつぐ神話哉	新涼	時候
8521	大正8年	秋の部	新涼や艶に消えたる揚花火	新涼	時候
8522	大正8年	秋の部	新涼やまばらに青き栗のいが	新涼	時候
8523	大正8年	秋の部	新涼に下草もなき社木哉	新涼	時候
8524	大正8年	秋の部	新涼や尚灯を慕ふ虫の数	新涼	時候
8525	大正8年	秋の部	新涼の郷思を載せて車哉	新涼	時候
8526	大正8年	秋の部	客のために石器運ぶや花葵	葵	植物
8527	大正8年	秋の部	蟬涼し神威に息を調ふる	蟬	動物
8528	大正8年	秋の部	新涼に高知る千木や雲見ゆる	新涼	時候
8529	大正8年	秋の部	水草の根は定まりぬ飛蜻蛉	蜻蛉	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8530	大正8年	秋の部	水澄むや菱の葉強に秋の蝶	秋の蝶	動物
8531	大正8年	秋の部	蝨紛々物も思はぬ小百姓	蝨	動物
8532	大正8年	秋の部	暮るゝ戸や誰につき来て蝨ぬる	蝨	動物
8533	大正8年	秋の部	露はしりて當るべからず芋畑	芋	植物
8534	大正8年	秋の部	芒野に顧るおのれ獨かな	芒	植物
8535	大正8年	秋の部	野菊咲きつらなるに客と歡べり	野菊	植物
8536	大正8年	秋の部	落つる日を後ろになして山田刈る	稲刈	人事
8537	大正8年	秋の部	身にしむや稲妻老いし山の雲	稲妻	天文
8538	大正8年	秋の部	秋風に靡くなびかぬ千草哉	秋の風	天文
8539	大正8年	秋の部	秋風に堪へて物いはず渡守	秋の風	天文
8540	大正8年	秋の部	秋風に干竿の鳴る夜となりぬ	秋の風	天文
8541	大正8年	秋の部	秋風に顔うつむけて晩歸哉	秋の風	天文
8542	大正8年	秋の部	秋風や手にしかと持つ茱萸の枝	秋の風	天文
8543	大正8年	秋の部	月の雲はしり去り虫高く鳴く	蟲	動物
8544	大正8年	秋の部	秋の雨暮れなんと虹見ゆる	秋の雨	天文
8545	大正8年	秋の部	霧を見る晴定めつ柿梢	霧	天文
8546	大正8年	秋の部	霧漫々戸に偏りて秋海棠	秋海棠	植物
8547	大正8年	秋の部	夜栗量る隣を耳に讀書哉	栗	植物
8548	大正8年	秋の部	行く人皆掛稲にかくれけり	掛稲	人事
8549	大正8年	秋の部	夫婦して新藁高く積上げつ	新藁	人事
8550	大正8年	秋の部	渋柿に稲扱器械ひゞく也	柿	植物
8551	大正8年	秋の部	風北に変わり豆引働きぬ	豆引	人事
8552	大正8年	秋の部	さらぼうて穂蓼まじりぬ草錦	草錦	植物
8553	大正8年	秋の部	菊の露を冒し蓋食む小虫哉	菊	植物
8554	大正8年	秋の部	菊畑の天の一方山崇き	菊	植物
8555	大正8年	秋の部	花々葉々相寄りて菊光る哉	菊	植物
8556	大正8年	秋の部	杉の実干す人に分たむ契哉	杉の實	植物
8557	大正8年	秋の部	大方の紅葉が中の菊光る	菊	植物
8558	大正8年	秋の部	背戸の菊に徑してゆく杉林	菊	植物
8559	大正8年	秋の部	ゆく秋の小禽と道に別れけり	行秋	時候
8560	大正8年	秋の部	尾花ちるに非ずや後の月夜頃	芒散る	植物
8561	大正8年	秋の部	童子去れば小鳥が遊ぶ散銀杏	銀杏散る	植物
8563	大正8年	秋の部	秋の海矢聲沈みて八百年	秋の海	地理
8564	大正8年	秋の部	燕既に歸りつくしぬ晝砧	砧	人事
8565	大正8年	秋の部	女より高き穂蓼や晝砧	砧	人事
8566	大正8年	秋の部	砧きく古き夢路や奈良の月	砧	人事
8567	大正8年	秋の部	山鳴りの絶えし安堵の砧かな	砧	人事
8568	大正8年	秋の部	砧措きて灯にこぞりけり京便	砧	人事
8569	大正8年	秋の部	砧うちて大学に入る子勵ましつ	砧	人事
8570	大正8年	秋の部	砧うつや母の年忌の近づくに	砧	人事
8571	大正8年	秋の部	ひとり砧うち行ひすましけり	砧	人事
8572	大正8年	秋の部	世の中は砧もうたず月に笛	砧	人事
8573	大正8年	秋の部	山里や砧に馴れて狸など	砧	人事
8574	大正8年	秋の部	月に怨じ風に啣ちてぞ砧うつ	砧	人事
8575	大正8年	秋の部	嫗一人砧うつ狐狸のすみか哉	砧	人事
8696	大正9年	秋の部	分野秋涼し筆星硯星	新涼	時候
8697	大正9年	秋の部	初嵐人谿川を渉りゆく	初嵐	天文
8698	大正9年	秋の部	風簷を鳴らして天の川老いし	天の川	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8699	大正9年	秋の部	地にありて旱怖れつ天の川	天の川	天文
8700	大正9年	秋の部	詩人何に獨起きたり天の川	天の川	天文
8702	大正9年	秋の部	ころ / \ と我に虫鳴く門出哉	蟲	動物
8703	大正9年	秋の部	野路の虫鳴止まず我旅行くに	蟲	動物
8704	大正9年	秋の部	此清水護る神います杉嵐	秋の嵐	天文
8705	大正9年	秋の部	踊子の兒白々と稗田ゆく	踊	人事
8706	大正9年	秋の部	君にして踊らば誰か踊らざらん	踊	人事
8707	大正9年	秋の部	終夜一樹を繞る踊かな	踊	人事
8708	大正9年	秋の部	曉の霧踊の場を封じけり	踊	人事
8709	大正9年	秋の部	山一ツ越えて踊に通ひけり	踊	人事
8710	大正9年	秋の部	山陰の踊見せうぞ急げ馬	踊	人事
8711	大正9年	秋の部	灯も置かで踊の留守居したりけり	踊	人事
8712	大正9年	秋の部	踊果てつ牽牛織女あか / \ と	踊	人事
8713	大正9年	秋の部	姉妹の踊を戻る先後かな	踊	人事
8714	大正9年	秋の部	おぼ子十七踊は今ぞ笛もよし	踊	人事
8716	大正9年	秋の部	皆共に月を悲しきものと見む	月	天文
8718	大正9年	秋の部	此月に鬚眉耀かす人あらむ	月	天文
8721	大正9年	秋の部	一日無事なれば菊の主たり	菊	植物
8722	大正9年	秋の部	菊の荅大きくなりぬ霧の中	菊	植物
8723	大正9年	秋の部	朝戸出に菊恙なし禽も飛ぶ	菊	植物
8724	大正9年	秋の部	年々や籬落の菊に往返り	菊	植物
8725	大正9年	秋の部	菊畑に物の落葉の乾きけり	菊	植物
8726	大正9年	秋の部	後の月を市に泊りし山の人	後の月	天文
8727	大正9年	秋の部	朝寒に衣の塵を掃ひけり	朝寒	時候
8728	大正9年	秋の部	温かき飯振まひぬ菊の宿	菊	植物
8729	大正9年	秋の部	風菊を撼かして主客黙しけり	菊	植物
8731	大正9年	秋の部	君が菊星ともならで蒼む哉	菊	植物
8732	大正9年	秋の部	菊に喚べば杳かに鷹ふ孤ツ松	菊	植物
8733	大正9年	秋の部	物の葉を掃きてすてけり後の月	後の月	天文
8734	大正9年	秋の部	霧の海に鳴子の縄のゆくへ哉	鳴子	人事
8735	大正9年	秋の部	蓼赤し野川にたるむ鳴子縄	鳴子	人事
8736	大正9年	秋の部	鳴子鳴ってのそりと立ちぬ山の僧	鳴子	人事
8737	大正9年	秋の部	社鼓鑿々鳴子の縄のくも手哉	鳴子	人事
8738	大正9年	秋の部	いさゝかの粟田に鳴子物々し	鳴子	人事
8739	大正9年	秋の部	遠き案山子近き鳴子の構哉	雑	雑
8740	大正9年	秋の部	逢はぬ恋夜の鳴子を鳴らしけり	鳴子	人事
8741	大正9年	秋の部	かりそめの縄れの解けて鳴子かな	鳴子	人事
8742	大正9年	秋の部	引板鳴って鴻高く渡りけり	鳴子	人事
8743	大正9年	秋の部	稻妻に鳴子静まる小村哉	鳴子	人事
8744	大正9年	秋の部	山郭や落穂拾ひに日一ツ時	落穂	植物
8745	大正9年	秋の部	老の身を屈めて落穂あさる哉	落穂	植物
8746	大正9年	秋の部	畔草の錦の中の落穂哉	落穂	植物
8747	大正9年	秋の部	落穂拾ふ子に北國の雲低れつ	落穂	植物
8748	大正9年	秋の部	落穂拾うてゆく / \ 霰至りけり	落穂	植物
8851	大正10年	秋の部	朝寒の中に遠山鎮まりぬ	朝寒	時候
8852	大正10年	秋の部	骨を去らぬ登山疲レや初嵐	初嵐	天文
8853	大正10年	秋の部	子一人のため機織るや初嵐	初嵐	天文
8854	大正10年	秋の部	帳中の詩人の燈や初嵐	初嵐	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8855	大正10年	秋の部	初嵐のなごり小庭の穂草哉	初嵐	天文
8856	大正10年	秋の部	初嵐秋海棠に及びけり	初嵐	天文
8857	大正10年	秋の部	家々の葉生姜茂り初嵐	初嵐	天文
8858	大正10年	秋の部	馬どころ馬皆美也初嵐	初嵐	天文
8859	大正10年	秋の部	客を送って潮をきゝつ初嵐	初嵐	天文
8860	大正10年	秋の部	物かげの秋海棠や初嵐	初嵐	天文
8861	大正10年	秋の部	女郎花の類ひ靡かず初嵐	初嵐	天文
8862	大正10年	秋の部	峠越す相撲の衆や初嵐	初嵐	天文
8864	大正10年	秋の部	白骨の白さ漾ふ露の中	露	天文
8865	大正10年	秋の部	朝寒や起きて文かく喪中人	朝寒	時候
8866	大正10年	秋の部	朝寒に花肥ゆるなり朝な / \	朝寒	時候
8867	大正10年	秋の部	朝寒を尚りん / \と虫の声	朝寒	時候
8868	大正10年	秋の部	朝寒や早起に慣れて花を剪る	朝寒	時候
8869	大正10年	秋の部	虫更けてはや朝寒を催しぬ	朝寒	時候
8870	大正10年	秋の部	朝寒にから / \と笑ふ家の兒等	朝寒	時候
8871	大正10年	秋の部	朝寒に狩得て悲し鮎の腹	朝寒	時候
8872	大正10年	秋の部	朝寒を提げ來る鱸らし	朝寒	時候
8873	大正10年	秋の部	朝寒の横雲割れて日を顔に	朝寒	時候
8876	大正10年	秋の部	ほくよみがやがらにすなる案山子哉	案山子	人事
8878	大正10年	秋の部	此水に鮎みずなりぬ花すゝき	芒	植物
8879	大正10年	秋の部	雲垂れて芒に道を得たりけり	芒	植物
8880	大正10年	秋の部	家を去る一里芒の旅心	芒	植物
8881	大正10年	秋の部	花芒案山子祭の客をまつ	芒	植物
8882	大正10年	秋の部	蟹寺に問答もなし花芒	芒	植物
8884	大正10年	秋の部	雨の如くつゆふる頃の事なりし	露	天文
8886	大正10年	秋の部	柿の味さめてゆく / \野菊見る	野菊	植物
8887	大正10年	秋の部	野菊さいて雀など飛ぶ古人の碑	野菊	植物
8888	大正10年	秋の部	祀られぬ案山子や野菊咲残る	野菊	植物
8889	大正10年	秋の部	日は山へ野菊に遊ぶ鳥もなし	野菊	植物
8890	大正10年	秋の部	我馬にむしり食はるゝ野菊哉	野菊	植物
8891	大正10年	秋の部	鐘の銘も野菊も古き世なりけり	野菊	植物
8892	大正10年	秋の部	野菊白く月東山に現はれし	野菊	植物
8893	大正10年	秋の部	掛稲にかくれて野菊盛哉	野菊	植物
8894	大正10年	秋の部	酒さめて野菊に家を顧る	野菊	植物
8895	大正10年	秋の部	旅行けバ野菊に愁ふ曇哉	野菊	植物
8897	大正10年	秋の部	ある時は菊圃に立ちて風をきく	菊	植物
8898	大正10年	秋の部	日嗣の皇子國見せさすや稲の秋	稻	植物
8900	大正10年	秋の部	掛稲やけふの足日に飛ぶ蟲	掛稲	人事
8901	大正10年	秋の部	掛稲も野菊もぬれつ通り雨	雑	雑
8902	大正10年	秋の部	稲人の安息日や菊膾	稻刈	人事
8903	大正10年	秋の部	稲積むや啄み足りて鶏歌ふ	稻刈	人事
8904	大正10年	秋の部	雲如錦神嘗の稲の秋	稻	植物
8905	大正10年	秋の部	門せまし稲扱機械柿落葉	稻こき	人事
8906	大正10年	秋の部	雁渡るかな掛稲の一郭	掛稲	人事
8907	大正10年	秋の部	稲の國粟の國八十神の國	雑	雑
8908	大正10年	秋の部	小提灯消さじと稲の露の中	稻	植物
9043	大正11年	秋の部	山霧の君が机を冒しけむ	霧	天文
9044	大正11年	秋の部	これより行け細道ながら露の中	露	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9046	大正11年	秋の部	つゆの音きゝつ一時の叢に	露	天文
9048	大正11年	秋の部	玫瑰に草鞋の埃浴せけり	玫瑰	植物
9050	大正11年	秋の部	麻どころの麻引くを見て帰る也	麻刈	人事
9051	大正11年	秋の部	北上の流騒がしや銀河	天の川	天文
9052	大正11年	秋の部	著るく洪水引きぬ天川	天の川	天文
9053	大正11年	秋の部	燕の歸らで淋し古戦場	秋燕	動物
9054	大正11年	秋の部	經堂を出て目を張りぬ百日紅	百日紅	植物
9055	大正11年	秋の部	白露や扉を開く金色堂	露	天文
9056	大正11年	秋の部	関守の子等とも見えず麻を引く	麻刈	人事
9057	大正11年	秋の部	六郡を稲妻す也草枕	稲妻	天文
9058	大正11年	秋の部	新涼や北上に飛ぶ杉嵐	新涼	時候
9059	大正11年	秋の部	如是月夜と知りて鳴く虫か	蟲	動物
9060	大正11年	秋の部	鳴く虫を脅かしたる一葉哉	蟲	動物
9062	大正11年	秋の部	道の辺の虫に響鳴らしゆく	蟲	動物
9063	大正11年	秋の部	經堂を出て階や晝の虫	蟲	動物
9064	大正11年	秋の部	虫の音を耳に墓辺の草むしる	蟲	動物
9065	大正11年	秋の部	曾良は知らず象潟の虫鳴初めし	蟲	動物
9066	大正11年	秋の部	押寄する狭霧に堪へて虫の鳴く	蟲	動物
9067	大正11年	秋の部	鳴く虫の鈴振立つる水際哉	蟲	動物
9068	大正11年	秋の部	虫鳴くや天にかゞやく星の華	蟲	動物
9069	大正11年	秋の部	虫鳴いて神の扉を護りけり	蟲	動物
9071	大正11年	秋の部	亭の長老子に乞ひぬ南瓜の賛	南瓜	植物
9072	大正11年	秋の部	秋風に孤峭の肩を吹かれけり	秋の風	天文
9073	大正11年	秋の部	抽ンでゝ大きく揺るゝ穂蓼哉	蓼の花	植物
9074	大正11年	秋の部	ひら / \ と風掠め去る芒かな	芒	植物
9075	大正11年	秋の部	物蔭に苔める艸や秋しぐれ	秋時雨	天文
9076	大正11年	秋の部	月あまり明きに虫の声まばら	蟲	動物
9078	大正11年	秋の部	益良夫ハ秋の帝の賜ぞ	秋	時候
9080	大正11年	秋の部	薯掘に酒を強ひけり山遊	自然薯掘る	人事
9081	大正11年	秋の部	草の花摘まで且つ見る愁哉	草花	植物
9082	大正11年	秋の部	山に遊びて家の灯を見る秋の暮	秋の暮	時候
9086	大正11年	秋の部	白に黄に後の雛衣めをと衣	後の雛	人事
9088	大正11年	秋の部	秋風や恃むものなき物の蔓	秋の風	天文
9089	大正11年	秋の部	夕日ぬくし紅葉にや酔ふ手弱女ら	紅葉	植物
9090	大正11年	秋の部	巖山の終日湿ふむら紅葉	紅葉	植物
9091	大正11年	秋の部	歌御會還御の後や夕紅葉	紅葉	植物
9092	大正11年	秋の部	詩稿焚くに折りてくべたる紅葉哉	紅葉	植物
9093	大正11年	秋の部	紅葉せぬ庭木の下に獨在り	紅葉	植物
9094	大正11年	秋の部	時しもあれ紅葉の爛れ霰打つ	紅葉	植物
9095	大正11年	秋の部	梅紅葉籬の菊へ徑かな	紅葉	植物
9096	大正11年	秋の部	豆腐買ひに紅葉の谿を出で来る	紅葉	植物
9097	大正11年	秋の部	紅葉敷きて筆硯を置くや紅葉狩	紅葉狩	人事
9098	大正11年	秋の部	雨過ぐる紅葉の林鹿もぬれつ	紅葉	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7547	大正2年	冬の部	雪雲の一重雨雲の八重春近き	春近し	時候
7548	大正2年	冬の部	名残焼く粃穀の阜春隣	春近し	時候
7550	大正2年	冬の部	さながらに雪道作れ下部ども	雪	天文
7669	大正2年	冬の部	はつあられ菊の奴を鞭ちぬ	霰	天文
7671	大正2年	冬の部	さゝ鳴や神に誓ひし面晴れ	笹鳴	動物
7673	大正2年	冬の部	水の低きに就く音とさゝ鳴と	笹鳴	動物
7674	大正2年	冬の部	伐木に戸寒し昔の頭巾思ふ	頭巾	人事
7675	大正2年	冬の部	雷鳴のこれを名残か燕引	燕引	人事
7676	大正2年	冬の部	草摺り木しぼり尽きて水涸れ / \	水涸	天文
7677	大正2年	冬の部	冬山に國見す樹を伴石を侶	冬山	天文
7752	大正3年	冬の部	話柄又薫染の事さゝ鳴て	笹鳴	動物
7754	大正3年	冬の部	枯菊の句もなし雪に埋もれ泣く	雪	天文
7833	大正5年	冬の部	風呂吹の味噌を點ずる第一義	風呂吹	人事
7834	大正5年	冬の部	大晴れの烟となりぬ冬の水	冬の水	天文
7835	大正5年	冬の部	寒の雨に老木の腕潤へり	寒の雨	天文
7836	大正5年	冬の部	この凍に酔人と道に別れけり	凍る	天文
7837	大正5年	冬の部	土掘れバ物の根切らる夕しぐれ	時雨	天文
7838	大正5年	冬の部	冬枯や尚鋤下ろす土の友	冬枯	植物
7839	大正5年	冬の部	和韻至る硯池の氷解にけり	氷	天文
7841	大正5年	冬の部	新涼の目に澄み耳に徹りけり	新涼	時候
7842	大正5年	冬の部	寒ン晴やまこと獸の穴にして	寒晴	天文
7843	大正5年	冬の部	晝餉最中に獸狩の鬨の声 (冬籠)	狩	人事
7844	大正5年	冬の部	夜学出て一尺の雪に呼びかはす (山家)	雪	天文
7845	大正5年	冬の部	門に立つ我が放心よ三十三才	鷓鴣	動物
7846	大正5年	冬の部	早起枯菊を焚く我寒に入る	寒の入	時候
7847	大正5年	冬の部	一ところの雲明り冬木立かな	冬木	植物
7848	大正5年	冬の部	狐見ゆたま / \ 大寒の靄ゆうべ	大寒	時候
7849	大正5年	冬の部	書楼より隣の干菜見る久し	干菜	人事
7850	大正5年	冬の部	沈思より起てバ冬木の怖ろしき	冬木	植物
7851	大正5年	冬の部	氷餅につく雀追へバ日昇る	氷餅	人事
7852	大正5年	冬の部	画賛の句を想ふ庭の枯柳	枯柳	植物
7853	大正5年	冬の部	書楼下る毎に北風の音す也	北風	天文
7854	大正5年	冬の部	画幅巻いて商人辞去す枯柳	枯柳	植物
7855	大正5年	冬の部	北風の屋鳴り画賛の筆を措く	北風	天文
7857	大正5年	冬の部	長辰宮南に暗き椿かな	椿	植物
7859	大正5年	冬の部	風邪の夢に南朝の古蹟冬されし	冬ざれ	時候
7860	大正5年	冬の部	薪足る積嵩や鷓鴣鳴く	鷓鴣	動物
7861	大正5年	冬の部	大寒や夕晴の山の彼方海	大寒	時候
7862	大正5年	冬の部	風邪に臥して土うつ寒の雨をさく	寒の雨	天文
7863	大正5年	冬の部	土玄し北國希有に雪ふらぬ	雪	天文
7864	大正5年	冬の部	病起一朝の雪の深さを行く	雪	天文
7865	大正5年	冬の部	氷餅吊す夜や谿川の水の音	氷餅	人事
7866	大正5年	冬の部	潜む魚に氷砕くや日昇る	氷	天文
7867	大正5年	冬の部	晝櫓火に傳家刀見る機会哉	櫓	人事
7868	大正5年	冬の部	日暄かに一炉根櫓の燃え尽きず	櫓	人事
7869	大正5年	冬の部	高山を後ろに推す雪舟の疾き	雪舟	人事
7870	大正5年	冬の部	夜学又大勢となりぬ積る雪	雪	天文
7871	大正5年	冬の部	春近き消息や硯池乾きけり	春近し	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7872	大正5年	冬の部	難解の書を讀了へぬ春隣	春近し	時候
7873	大正5年	冬の部	山脈の雪に書樓の起居かな	雪	天文
7874	大正5年	冬の部	炭竈の一時冬日正面なる	冬日	天文
7875	大正5年	冬の部	冬日落ちゆくに尚斧揮ふあり	冬日	天文
8031	大正5年	冬の部	草鞋の泥乾くまもなし栗落葉	落葉	植物
8032	大正5年	冬の部	朽葉ふみゆけバ菊の黄活きてあり	朽葉	植物
8033	大正5年	冬の部	書樓日々木葉掃出す三五片	落葉	植物
8034	大正5年	冬の部	書出シをかゝねばならぬ日の暮るゝ	掛乞	人事
8035	大正5年	冬の部	吾庭にのみあり芭蕉枯れにけり	枯芭蕉	植物
8036	大正5年	冬の部	山郭や我は顔なる干大根	干大根	人事
8037	大正5年	冬の部	霜朝日障子の中に泣く乳児よ	霜	天文
8038	大正5年	冬の部	莢開いて豆自から落つ達磨の忌	達磨忌	人事
8040	大正5年	冬の部	遠山の雪看る市の蜜柑かな	雪	天文
8041	大正5年	冬の部	遠山の雪耀けり一架の書	雪	天文
8042	大正5年	冬の部	鷹凜々雪尖る北方の山	雪	天文
8043	大正5年	冬の部	雪疊む山遠し大河日に潤るゝ	雪	天文
8044	大正5年	冬の部	玻璃窓の曇拭へり庭冬木	冬木	植物
8045	大正5年	冬の部	海底へ冬雷の失せにけり	冬雷	天文
8046	大正5年	冬の部	机一つ蔵書さてなし煤拂	煤拂	人事
8047	大正5年	冬の部	すゝの日や到來の柑子端近な	煤拂	人事
8048	大正5年	冬の部	子等が頬いよ / \ 紅し年の暮	年の暮	時候
8049	大正5年	冬の部	鬢斜に燭寒し海鳥の鳴く	寒さ	時候
8050	大正5年	冬の部	曲闕れバ冬木原又風の吹く	冬木	植物
8058	大正6年	冬の部	河に臨むて氷堅きを信じけり	氷	天文
8059	大正6年	冬の部	漁夫の群大きくなりぬ厚氷	氷	天文
8062	大正6年	冬の部	吹雪ぬくや我が肺腸のもゆる音	吹雪	天文
8063	大正6年	冬の部	高樅を楯に家栖む冬日かな	冬の日	時候
8064	大正6年	冬の部	泣きやまぬ兒に吹雪婆の驚破來る	吹雪	天文
8065	大正6年	冬の部	青空を見るうれしさよ屋根の雪	雪	天文
8066	大正6年	冬の部	朝な / \ 雪道踏むや山遠き	雪	天文
8067	大正6年	冬の部	大雪に露はなる我頭かな	雪	天文
8068	大正6年	冬の部	日景通ふ雪に埋れて鶏の鳴く	雪	天文
8069	大正6年	冬の部	雀の如ふくらみて雪の人の來る	雪	天文
8070	大正6年	冬の部	閑話良久し屢々垂氷落つ	垂氷	天文
8071	大正6年	冬の部	村文庫へ雪沓の痕新らしき	雪沓	人事
8072	大正6年	冬の部	門札の我名見古りぬ枯柳	枯柳	植物
8073	大正6年	冬の部	磧より炭竈の烟見上げたり	炭がま	人事
8075	大正6年	冬の部	青空を見る偶々や冬の水	冬の水	天文
8076	大正6年	冬の部	凍霧の中夜明の瀬鳴り高まさる	凍霧	天文
8077	大正6年	冬の部	屋根の雪おろす本堂鳴ひゞく	雪下し	人事
8190	大正6年	冬の部	初冬の雲に壓さるゝ小村哉	初冬	時候
8191	大正6年	冬の部	常盤木に神鎮まるや玉霰	霰	天文
8192	大正6年	冬の部	雑穀地にこぼれ霰雲の飛ぶ	霰	天文
8193	大正6年	冬の部	霰急渡りおくれし藪小鳥	霰	天文
8194	大正6年	冬の部	廬を出てゝ古人に似たる時雨哉	時雨	天文
8195	大正6年	冬の部	獨ゆく我に木葉のふることよ	木葉	植物
8197	大正6年	冬の部	ゆく春のことというて山を下りけり	行春	時候
8199	大正6年	冬の部	輕寒と怕る眉目や小六月	小春	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8200	大正6年	冬の部	雪の笹に馬遊バすや事始	事始	人事
8201	大正6年	冬の部	鮭さげし人にゆづりぬ落葉道	落葉	植物
8204	大正6年	冬の部	雀飢ゑて軒を離れず枯柳	枯柳	植物
8206	大正6年	冬の部	天高地厚菊もろ / \ の影	菊	植物
8207	大正6年	冬の部	賢といはむ菊に仕へて樂める	菊	植物
8209	大正6年	冬の部	枝を擇む悲しき鳥や冬木立	冬木	植物
8217	大正7年	冬の部	群木は雪にうもれて松と我	雪	天文
8218	大正7年	冬の部	釜の湯の徒に沸騰す吹雪哉	吹雪	天文
8219	大正7年	冬の部	雪の城垂氷の砦書に籠る	雑	雑
8220	大正7年	冬の部	我が蒲團の裾邊萬國地圖掛る	蒲團	人事
8221	大正7年	冬の部	この雪の下に青菜の偃しあらむ	雪	天文
8222	大正7年	冬の部	風邪去らぬ頭冬川に臨みけり	冬川	天文
8223	大正7年	冬の部	今朝も掃かれず障子の羽虫いつ凍てし	凍る	天文
8224	大正7年	冬の部	冬川に明るき樹影帆影哉	冬川	天文
8225	大正7年	冬の部	産土神の杉を力や雪の中	雪	天文
8226	大正7年	冬の部	凍霧晴に人々の晴耀けり	凍霧	天文
8227	大正7年	冬の部	樹々骨の如く凍霧裂けて飛ぶ	凍霧	天文
8228	大正7年	冬の部	朝日充ちて蒼空に凍霧消えゆけり	凍霧	天文
8229	大正7年	冬の部	雪凍てし響あり稀に行く人に	雪	天文
8230	大正7年	冬の部	雪沓の又しも足に合はぬかな	雪沓	人事
8373	大正7年	冬の部	木葉飛ぶ頻に谷の水騒ぐ	木葉	植物
8374	大正7年	冬の部	神儼に杜にいますや散紅葉	散紅葉	植物
8375	大正7年	冬の部	竹伐て紅葉大方ちらしけり	散紅葉	植物
8376	大正7年	冬の部	新嘗のたなつもの紅葉散はゆる	散紅葉	植物
8377	大正7年	冬の部	人并に干菜釣得て妻のあり	干菜	人事
8378	大正7年	冬の部	かの母も子等が需むる胼薬	皸	人事
8380	大正7年	冬の部	枯野ゆくまがつひ何に潜みたる	枯野	天文
8382	大正7年	冬の部	いかなれバ物狂はしう霰うつ	霰	天文
8384	大正7年	冬の部	行年や尚あり / \ と天の川	行年	時候
8385	大正7年	冬の部	日短く師走の空の窄まりぬ	師走	時候
8386	大正7年	冬の部	少間に只山を見つ年の暮	年の暮	時候
8387	大正7年	冬の部	或日獨書齋の煤を拂ひけり	煤拂	人事
8388	大正7年	冬の部	足跡もなき鎮守の雪や札納	札納	人事
8389	大正7年	冬の部	行年の一日の晴を惜みけり	行年	時候
8390	大正7年	冬の部	大方の人に咎なし年忘	年忘	人事
8391	大正7年	冬の部	年尽るまで枯菊を守りけり	枯菊	植物
8392	大正7年	冬の部	書出シ配り終へて主人澹如たり	掛乞	人事
8393	大正7年	冬の部	子等が歌ふこん / \ 霰年暮るゝ	年の暮	時候
8395	大正7年	冬の部	この寒さ温石いかにし給ひし	温石	人事
8405	大正8年	冬の部	飴笹のひたからびけり冬籠	冬籠	人事
8407	大正8年	冬の部	春立つや衣裳好みの甲斐 / \ し	立春	時候
8408	大正8年	冬の部	霜柱ゆく / \ 筑波遙かなり	霜柱	天文
8409	大正8年	冬の部	魚ハ淵に潜みて久し霜柱	霜柱	天文
8410	大正8年	冬の部	霜柱の中に去來が墓石哉	霜柱	天文
8411	大正8年	冬の部	丈山の足跡見よや霜柱	霜柱	天文
8412	大正8年	冬の部	松間を僧俗二人霜柱	霜柱	天文
8413	大正8年	冬の部	霜柱金色堂は鎖されて	霜柱	天文
8414	大正8年	冬の部	武蔵野の芒残りぬ霜柱	霜柱	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8415	大正8年	冬の部	霜柱寒雁鳴いて渡りけり	霜柱	天文
8416	大正8年	冬の部	霜柱例の針子が小風呂敷	霜柱	天文
8417	大正8年	冬の部	霜柱水暖かに流れけり	霜柱	天文
8577	大正8年	冬の部	巖すべりて水に流るゝちり紅葉	散紅葉	植物
8578	大正8年	冬の部	落葉深く靱磨奥に聞ゆ也	落葉	植物
8579	大正8年	冬の部	早起の子等踏みてをり今朝落葉	落葉	植物
8580	大正8年	冬の部	大川に沿うてあるきぬ日短く	短日	時候
8581	大正8年	冬の部	落葉ふむで夜も行かふ隣どち	落葉	植物
8582	大正8年	冬の部	日の中に木葉ふり / \ 静まりぬ	木葉	植物
8583	大正8年	冬の部	霜ながら物皆朝を動きつゝ	霜	天文
8585	大正8年	冬の部	この山をしぐれて帰る湖の人	時雨	天文
8586	大正8年	冬の部	草錦霰消ゆるに降りそゝぐ	霰	天文
8587	大正8年	冬の部	水槽の底へ木葉や一時雨	木葉	植物
8588	大正8年	冬の部	麦蒔の晝餉や海の鳥來鳴く	麦蒔	人事
8589	大正8年	冬の部	麦蒔に霜の兆の天青し	麦蒔	人事
8590	大正8年	冬の部	麦蒔人心無げやな草の花	麦蒔	人事
8591	大正8年	冬の部	麦を蒔く土軟かや雁稀に	麦蒔	人事
8592	大正8年	冬の部	我糧の麦蒔く夫婦憩ひけり	麦蒔	人事
8593	大正8年	冬の部	風掃くや麦蒔き終へし土と人	麦蒔	人事
8594	大正8年	冬の部	麦蒔の短日土の黒き哉	麦蒔	人事
8595	大正8年	冬の部	麦蒔の藁灰飛ぶや風曇り	麦蒔	人事
8596	大正8年	冬の部	麦蒔に遅き日出でゝぬくさ哉	麦蒔	人事
8597	大正8年	冬の部	凧の下に麦蒔しづまりぬ	麦蒔	人事
8598	大正8年	冬の部	北國の麦蒔日和称へけり	麦蒔	人事
8600	大正8年	冬の部	風呂吹の湯氣の中より宣はく	風呂吹	人事
8610	大正9年	冬の部	未了寒し決定の時尚寒し	寒さ	時候
8611	大正9年	冬の部	雪舞ふや鴛鴦見失ふ水の隈	雪	天文
8612	大正9年	冬の部	篋の雪に朝茶の煙かな	雪	天文
8613	大正9年	冬の部	雪ちるや神の泉の苔の上	雪	天文
8614	大正9年	冬の部	湖照るや松のあはひの比良の雪	雪	天文
8615	大正9年	冬の部	曉天の第一砲や雪の山	雪山	天文
8616	大正9年	冬の部	鷹飛ぶや峯の雪ふむ旅の者	雪	天文
8617	大正9年	冬の部	薄雪や梅の在所の道普請	雪	天文
8618	大正9年	冬の部	日色なし雪に聳ゆる雪の山	雪	天文
8619	大正9年	冬の部	簾外の雪に小櫓や歌舞の町	雪	天文
8620	大正9年	冬の部	かれ / \ し芒に雪の小鳥哉	雪	天文
8621	大正9年	冬の部	神木にはや道絶えし深雪かな	雪	天文
8622	大正9年	冬の部	古椿雪暖かにすべりけり	雪	天文
8624	大正9年	冬の部	言靈の鶯の春をも待たず	春待	時候
8626	大正9年	冬の部	可憐綺夢驚いてこたつ冷ゆ	炬燵	人事
8627	大正9年	冬の部	蒲團去ればこたつの骸古びたり	炬燵	人事
8628	大正9年	冬の部	我と老いぬこたつ蒲團の蝶鳥も	炬燵	人事
8629	大正9年	冬の部	こたつ出て狩に行く人見送りぬ	炬燵	人事
8630	大正9年	冬の部	こたつして曾遊遠き思かな	炬燵	人事
8631	大正9年	冬の部	置こたつ故人遠く寄す吉野の句	炬燵	人事
8632	大正9年	冬の部	蠅生きてこたつ蒲團の香に漂ふ	炬燵	人事
8633	大正9年	冬の部	こたつ知らぬ老の僕ぞ何にゆく	炬燵	人事
8634	大正9年	冬の部	こたつ蒲團の裾辺玩具の鳥獸	炬燵	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8635	大正9年	冬の部	こたつ蒲團の香を吐く雪の小庭哉	炬燵	人事
8750	大正9年	冬の部	物潜みつくして落葉静まりぬ	落葉	植物
8751	大正9年	冬の部	我と共に落葉ふみ行く人もなし	落葉	植物
8752	大正9年	冬の部	日暮るゝに落葉掃残す一樹哉	落葉	植物
8754	大正9年	冬の部	詩書堆裏兒等橙を玩ぶ	橙	植物
8912	大正10年	冬の部	風吹けバ物の悲しき釣干菜	干菜	人事
8913	大正10年	冬の部	物の緒の枯木に絡む鷹野哉	枯木	植物
8921	大正11年	冬の部	鳥寒くさかしまに落つ壑の底	寒さ	時候
8922	大正11年	冬の部	冬雲の明るき處なかりけり	冬の雲	天文
8923	大正11年	冬の部	冬雲と流るゝ茶毘の煙哉	冬の雲	天文
8924	大正11年	冬の部	人々も柩も一時吹雪哉	吹雪	天文
8925	大正11年	冬の部	いつち行きし我子や冬木そゝり立つ	冬木	植物
9102	大正11年	冬の部	武蔵野の冬菜所や富士白し	冬菜	植物
9103	大正11年	冬の部	武蔵野の霜に面を曬しけり	霜	天文
9105	大正11年	冬の部	岩山に凍えし鳥と見ゆる哉	凍る	天文
9106	大正11年	冬の部	川涸れて生物何に潜みけむ	川涸	天文
9108	大正11年	冬の部	筆硯を凍てさせじとす冬籠	冬籠	人事
9110	大正11年	冬の部	折ふしハ冬至近き日さす故に	冬至	時候
9111	大正11年	冬の部	曼陀羅を後ろに落葉踏去りぬ	落葉	植物
9112	大正11年	冬の部	落葉踏むこと良久し富士見ゆる	落葉	植物
9113	大正11年	冬の部	岩山に吹きも溜らぬ落葉哉	落葉	植物
9114	大正11年	冬の部	東京より歸れば落葉庭を埋む	落葉	植物
9115	大正11年	冬の部	谿落葉くゞり来て水明かに	落葉	植物
9116	大正11年	冬の部	桑の何の五畝の落葉のつもるまゝ	落葉	植物
9117	大正11年	冬の部	落葉焚きし烟うすれてたそがるゝ	落葉	植物
9118	大正11年	冬の部	落葉かけバ水自から流れけり	落葉	植物
9119	大正11年	冬の部	庭もせの落葉静まる月夜哉	落葉	植物
9120	大正11年	冬の部	日中は人も落葉も騒がしき	落葉	植物
9121	大正11年	冬の部	水際の葦四五本や鴨遊ぶ	鴨	動物
9122	大正11年	冬の部	水鳥の飛ぶ颯爽と水の上	水鳥	動物
9123	大正11年	冬の部	この頃の悲しき色や冬の雲	冬の雲	天文
9124	大正11年	冬の部	冬構ガラスの明り頼もしき	冬構	人事